

総合学科について

1. 総合学科の設立当初の理念

- 平成3年の中教審答申「新しい時代に対応教育の諸制度の改革について」では、
「技術革新の進展に伴い産業・就業構造が大きく変化している時代にあっては、生徒が進路決定を先送りしており、また、こうした変化の下では、従来の特定の職業のための職業教育だけでなく、あらゆる職業に共通の実際的な知識・技能を習得されることが求められている」

との認識の下、

「普通科と職業学科を統合するような新たな学科を設置することが適当」
である旨の提言がなされた。

- これを受け「高等学校教育の改革の推進に関する会議」第4次報告(平成5年2月)では、総合学科設置の趣旨や総合学科における教育の特色等について考え方をとりまとめ、

- * 総合学科では次のような教育上の特色を持たせることが必要と指摘している。
- ・ 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること
 - ・ 生徒の個性を生かした主体的な学習を通じて、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること
- * 総合学科を新たに設ける意義として、以下の3点を挙げている。
- ・ 単位制や、学校外の学修成果の単位認定等に係る諸制度を大胆に活用するなど、「思い切った教育課程の弾力化を容易にすることが期待できる」
 - ・ 多様な入学者選抜や、履修科目の自由な選択を通して、能力・適性等の多面的な評価が行われることにより、「いわゆる偏差値を尺度とする高等学校間の序列意識を打破する契機となることが期待できる」
 - ・ 様々な分野の基礎・基本の学習に適切な科目が多数開設され、「地域の人々の要望を踏まえつつ生涯学習機関としての役割を果たすことが期待できる。」

2. 教育課程上の特色

- 総合学科の教育課程に関しては、「高等学校教育の改革の推進に関する会議」第4次報告において、

「自己の進路への自覚を深めさせるとともに、将来の職業生活の基礎となる知識・技術等を修得させるため、原則として全ての生徒に履修させる…科目として、『産業社会と人間』、『情報に関する基礎科目』及び『課題研究』を開設することが適切である」
とされた。

[→平成5年3月 文部省初等中等教育局長通知「総合学科について」により、趣旨徹底]

- その際、「産業社会と人間」及び「課題研究」の目標は、それぞれ以下のとおりとされている。

* 産業社会と人間

ア 自己の生き方を探求させるという観点から、自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図ること。

イ 現実の産業社会やその中での自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図ることとする。

* 課題研究

多様な教科・科目の選択履修によって深められた知的好奇心等に基づいて自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としての在り方生き方について考察させることとする。

3. 現状と課題

○ 学校数・生徒数の状況 [別添2 スライドNo.2参照]

◆ 学校数 (全日制・定時制)

H7	7校	(高等学校全体の 0.1%)
H16	249校	(高等学校全体の 4.6%)
H24	352校	(高等学校全体の 7.0%)

◆ 生徒数 (全日制・定時制)

H7	5,501人	(高等学校全体の 0.1%)
H16	120,013人	(高等学校全体の 3.2%)
H24	174,562人	(高等学校全体の 5.2%)

※ 総合学科は、全都道府県において設置。
(最多は大阪府で22校、最少は奈良県で1校)

○ 卒業後進路の状況 [別添2 スライドNo.36 参照]

◆ 大学等進学

H12	29.6%
H18	34.6%
H24	35.7%

◆ 専修学校(専門課程)進学

H12	26.8%
H18	24.7%
H24	28.1%

◆ 就職

H12	25.9%
H18	28.3%
H24	25.4%

○ 中途退学率の状況

◆ 全日制・総合学科

H19	2.2%
H21	1.7%
H23	1.6%

《参考》

◆ 全日制・普通学科

H19	1.6%
H21	1.2%
H23	1.1%

◆ 全日制・専門学科

H19	2.3%
H21	1.9%
H23	1.7%

○ 総合学科に対する理解

ア 入学前の生徒のイメージ [別添2 スライドNo.7参照]

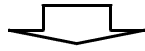
- ・ 多くの選択科目が開設されている (68.5%)
- ・ 興味関心を深められる (33.5%)
- ・ 個に応じた指導をしてくれる (29.1%)
- ・ 自分の生き方を考える学習ができる (23.5%)
- ・ 普通科目と専門科目をバランスよく学べる (21.3%)

⋮

イ 入学後の変化

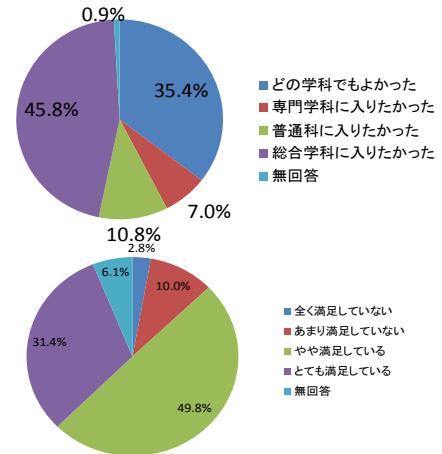
- 総合学科に入りたいという希望をもって入学した生徒は全体の45.8%

[別添2] スライドNo. 11参照]



- 総合学科を選択したことについて、入学後、とても満足している 又は やや満足していると回答した生徒は8割を超える。

[別添2] スライドNo. 45参照]



ウ 総合学科を選んだ理由 [別添2] スライドNo. 13参照]

	H11	H19	
やりたい勉強ができる	(64.4%)	(52.7%)	↘
自由に学ぶ科目を選択できる	(66.3%)	(48.8%)	↘
学力にあっている	(35.3%)	(37.0%)	→
個性を伸ばすことができる	(33.3%)	(26.7%)	↘
進路についてじっくり考えることができる	(22.1%)	(18.8%)	↘
⋮			

○ 総合学科に対する評価

ア 総合学科に満足している点 (生徒回答) (別添2] スライドNo. 47参照)

- 興味・関心等に応じて選択できる (68.1%)
- 多様な選択科目が開設されている (41.9%)
- 進路にも就職にも対応した教科等を選択できる (33.8%)
- 進路等に目的を持つことができる (28.8%)
- 体験的・実践的な学習活動ができる (18.6%)
- ⋮

イ 総合学科に不満足な点 (生徒回答) (別添2] スライドNo. 48参照)

- 進路について考える時間がもっと必要 (27.1%)
- 施設・設備が不十分である (24.0%)
- 進学が難しい (20.0%)
- 選択科目の分野の数が不十分 (19.5%)
- 体験的・実践的な学習活動がもっと必要 (14.9%)
- ⋮

ウ 現在抱えている課題 (教育委員会回答) (別添2] スライドNo. 40参照)

- 保護者の総合学科についての理解が深まっていない (72.7%)
- 中学生の総合学科についての理解が深まっていない (68.2%)
- 地域の人々の総合学科についての理解が深まっていない (56.8%)
- 他学科の高等学校に比べて運営経費がかかる (43.2%)
- 生徒の主体的な学習の成果が進路実績として表れていない (36.4%)
- ⋮

今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成23年1月31日）（抄）

（3）総合学科

① 総合学科を導入したことによる成果

- 総合学科を導入したことによる成果としては、「生徒が将来の職業選択を視野に入れ、自己の将来の生き方・働き方や進路について自覚を深めることができている」「個性をいかした主体的な学習を通じ、生徒が学ぶことの楽しさや成就感を体験することができている」「生徒の多様な興味・関心、進路希望等に柔軟に対応した教育活動を実施することができている」ことを挙げる学校・教育委員会が多く、ほとんどの学校において、導入当時に期待されていた教育の特色を理解した活動を実施していることがうかがえる。
- また、「キャリア教育を組織的・計画的に推進することができている」ことを挙げる学校・教育委員会も多く、キャリア教育を推進するに際して、総合学科の特色を適切に活用できている学校が多いことがうかがえる。
- さらに、総合学科に在籍する生徒に、総合学科で学ぶことへの満足度を尋ねたところ、「満足」「ほぼ満足」と回答した者が約80%を占めており、生徒の満足度は比較的高い。

② 総合学科の課題

- 総合学科の課題としては、「生徒が目的意識や将来の進路への自覚を持っていないため、主体的な科目選択を行わせることが難しい（安易な科目選択を行う傾向にある）」ことを挙げる学校・教育委員会が多い。
一方、総合学科に在籍する生徒は、総合学科の特色として「自分の進路について学び、じっくり考えることができる」と考えている者が多い（約76%）にもかかわらず、総合学科に満足している点として「進路等に目的を持つことができる」ことを挙げる者は少ない（約29%）。
- また、「中学生及びその保護者の総合学科に対する理解や認知度が低い」「中学校の教職員の総合学科に対する理解が不十分である」ことを挙げる学校・教育委員会も多い。一方、「高等学校の教職員の総合学科に対する理解が不十分である」ことを挙げる学校・教育委員会も多い。
- さらに、「様々な教科・科目を開設しているため、他の学科と比べて教職員の負担が大きい」「教員数が十分でないため、多様な教科・科目を開設することが難しい」ことを挙げる学校・教育委員会が多く、「生徒の多様な興味・関心、進路希望

等に柔軟に対応した教育活動を実施することができている」という成果を上げるためには、教職員組織の効率的な運営や必要な体制整備が求められていることがうかがえる。

③ 総合学科の今後の在り方

- このように、各学校においては、総合学科の特色をいかした教育活動に取り組んでいる一方、総合学科の本来の目的である、生徒に目的意識や将来の進路への自覚を持たせるための学習を進めることが難しい状況にあるなど、その特色をいかすための教育活動を更に充実するための方策が必要であることがうかがえる。

このため、各学校・教育委員会においては、高等学校の教職員の総合学科に対する理解を促進するとともに、生徒に目的意識や将来の進路への自覚を持たせるための教育活動の充実や、そのための教育環境の充実に努めることが必要である。

- また、総合学科における教育活動や生徒の学習成果等について、地域の中学校等に対して積極的な情報発信を行うことにより、中学生やその保護者、教職員といった中学校関係者等の理解の促進に努めるとともに、中学校の進路指導においては、総合学科に対する知識や理解を深めた上で行うことが必要である。

- さらに、総合学科の本来の目的である、生徒が主体的に選択して学習するという教育を実施し、将来の進路への自覚を促すためには、普通教科・専門教科ともに幅広く開設し、多様な分野の学習機会を保障するための条件整備が不可欠である。このため、総合学科を設置する地方公共団体等においては、このような必要性を十分踏まえた取組が必要である。特に、「産業社会と人間」をはじめとするキャリア教育を担当する力量のある教員や多様な専門性を持った教員の配置、学校外の人材や学習機会の積極的な活用、多様な専門教科を開設するために十分な学校規模の確保、施設・設備等の充実等について、高等学校の再編を進める中で十分に考慮していくことが必要である。

高等学校学習指導要領（平成21年3月）抄

第1章 総則

第2款 各教科・科目及び単位数等

5 学校設定教科

(1) 学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、上記2及び3の表に掲げる教科以外の教科（以下「学校設定教科」という。）及び当該教科に関する科目を設けることができる。この場合において、学校設定教科及び当該教科に関する科目の名称、目標、内容、単位数等については、高等学校教育の目標及びその水準の維持等に十分配慮し、各学校の定めるところによるものとする。

(2) 学校においては、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができる。この科目の目標、内容、単位数等を各学校において定めるに当たっては、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。

ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成

イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察

ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

第3款 各教科・科目の履修等

3 総合学科における各教科・科目の履修等

総合学科における各教科・科目の履修等については、上記1のほか次のとおりとする。

(1) 総合学科においては、第2款の5の(2)に掲げる「産業社会と人間」をすべての生徒に原則として入学年次に履修させるものとし、標準単位数は2～4単位とすること。

(2) 総合学科においては、学年による教育課程の区分を設けない課程（以下「単位制による課程」という。）とすることを原則とするとともに、「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて25単位以上設け、生徒が多様な各教科・科目から主体的に選択履修できるようにすること。

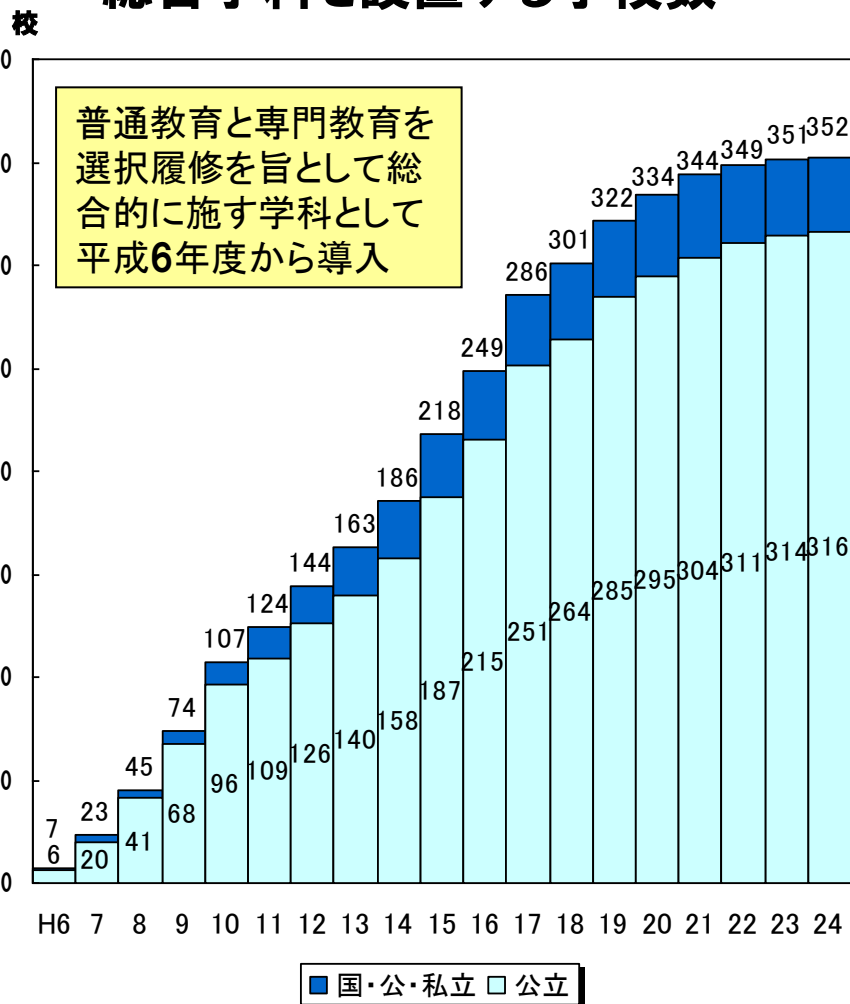
その際、生徒が選択履修するに当たっての指針となるよう、体系性や専門性等において相互に関連する各教科・科目によって構成される科目群を複数設けるとともに、必要に応じ、それら以外の各教科・科目を設け、生徒が自由に選択履修できるようにすること。

総合学科を設置する高等学校の現状

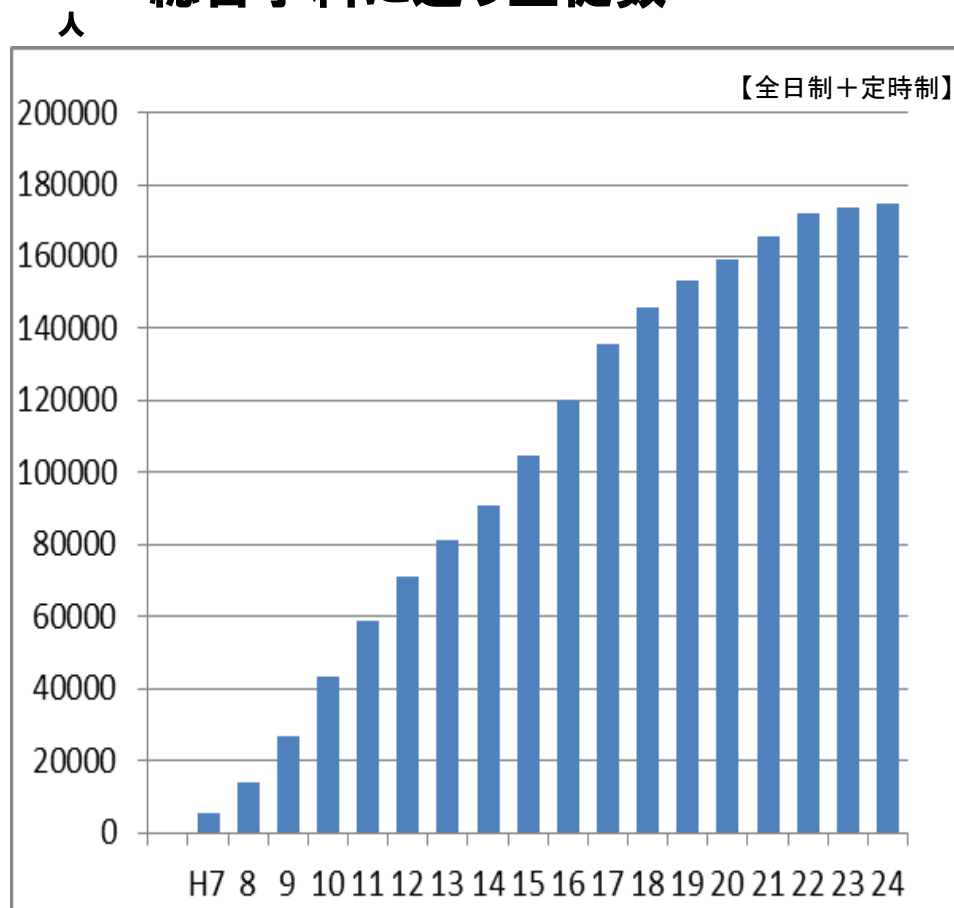
1. 学校の規模・体制等

総合学科の数・生徒数

総合学科を設置する学校数

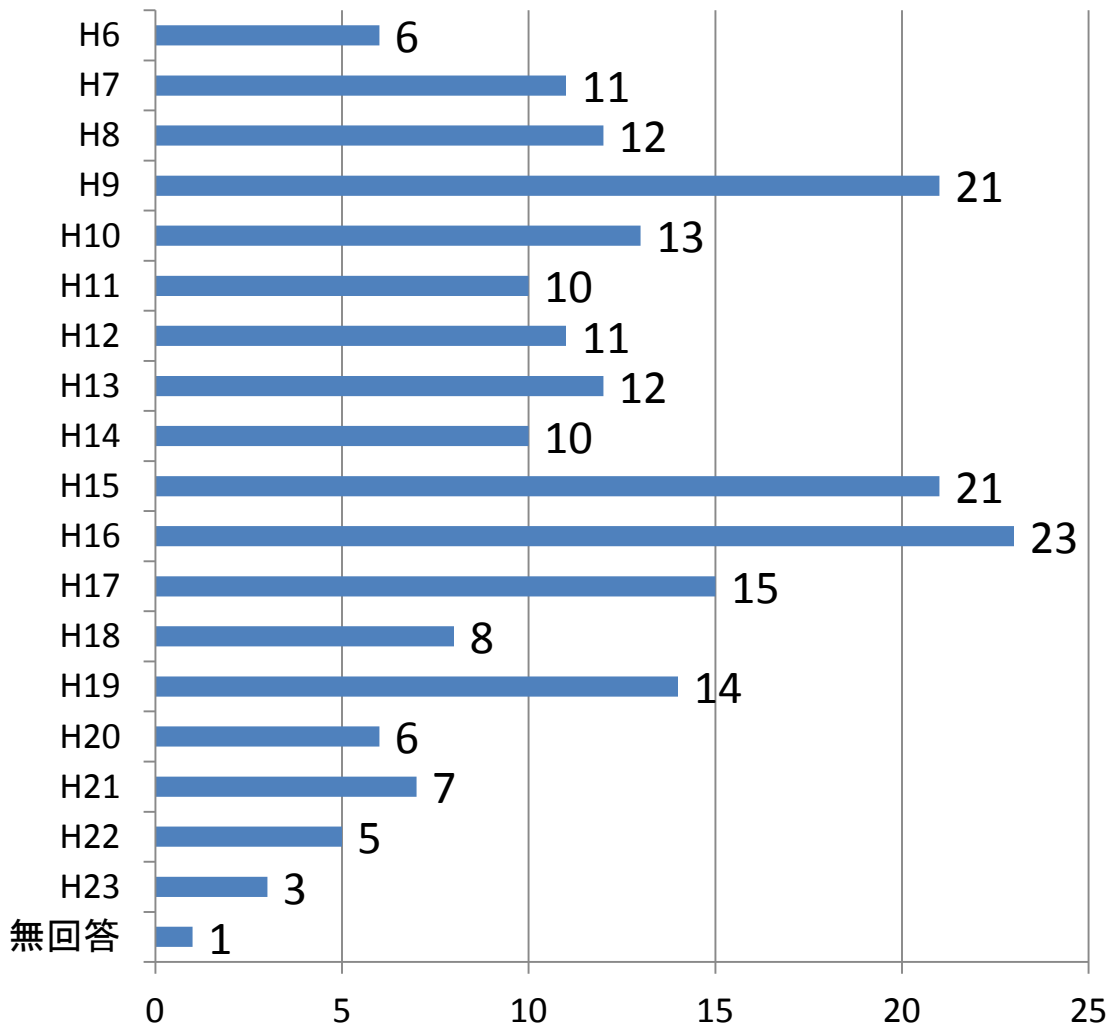


総合学科に通う生徒数

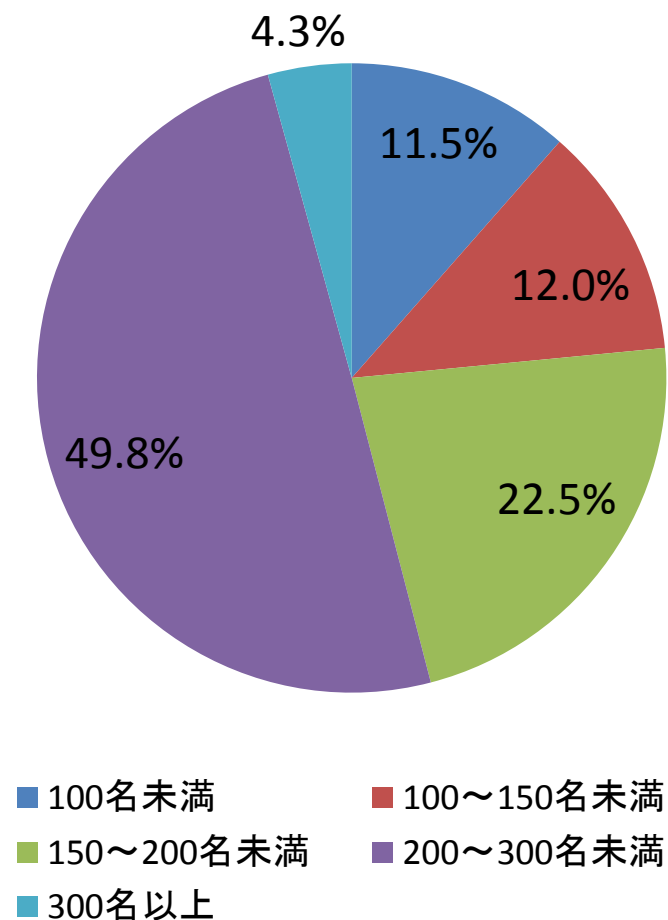


総合学科高等学校の体制①

開設年度別学校数



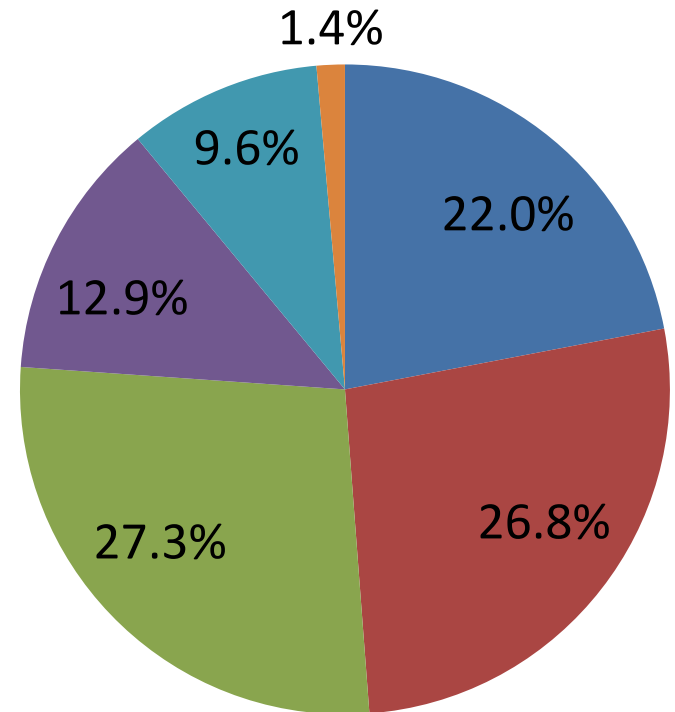
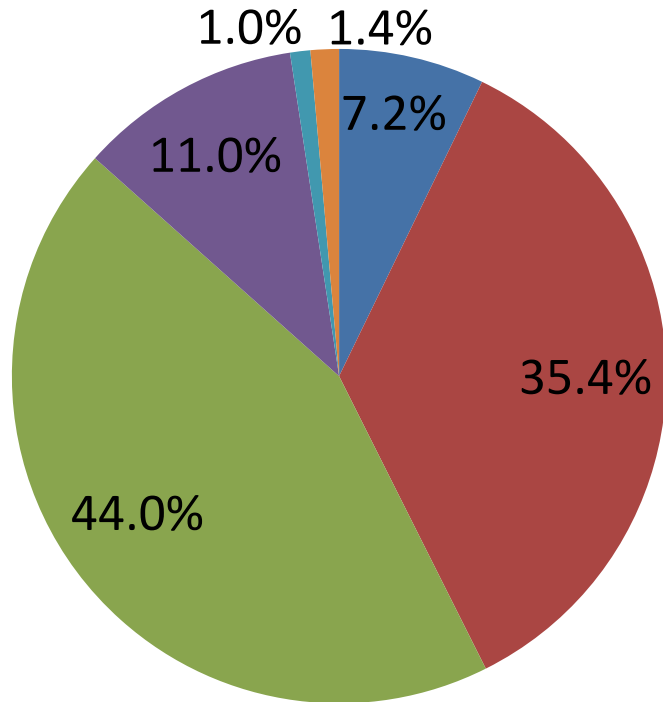
1学年の定員



総合学科高等学校の体制②

常勤教諭数

非常勤教諭数



- | | |
|------------|------------|
| ■ 20名未満 | ■ 20~40名未満 |
| ■ 40~60名未満 | ■ 60~80名未満 |
| ■ 80名以上 | ■ 無回答 |

- | | |
|------------|------------|
| ■ 5名未満 | ■ 5~10名未満 |
| ■ 10~15名未満 | ■ 15~20名未満 |
| ■ 20名以上 | ■ 無回答 |

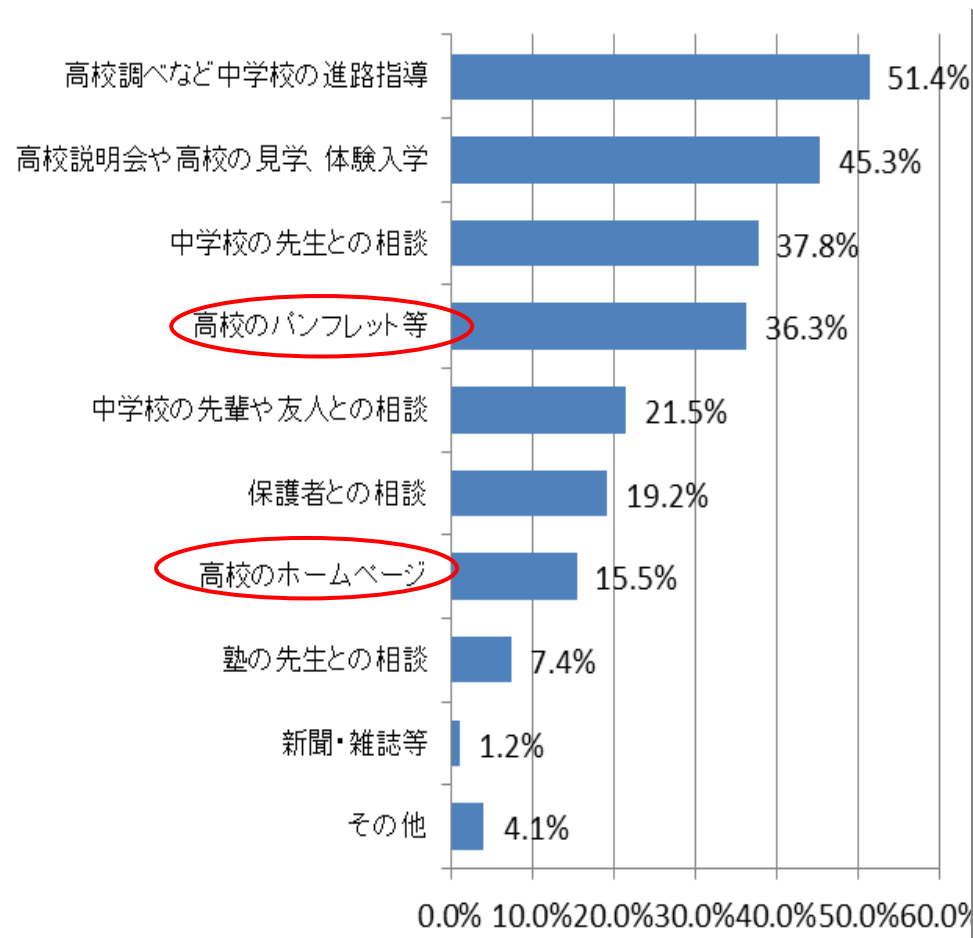
出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第4章 総合学科の校長への質問紙調査による総合学科の現状と課題

2. 入学前の状況

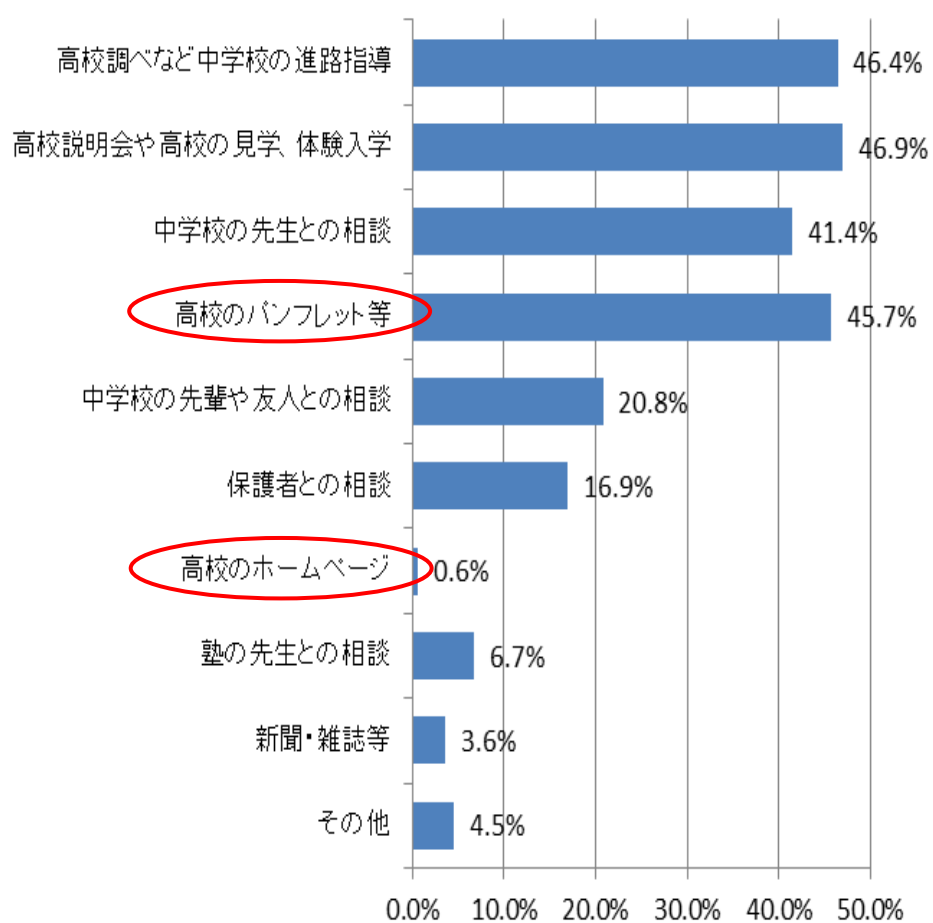
中学生の時の総合学科についての情報入手先

○情報の入手先としてパンフレットと回答する割合が10%減少したが、ホームページが15%増加

【平成19年調査】



【平成11年調査(公立全日制学校)】

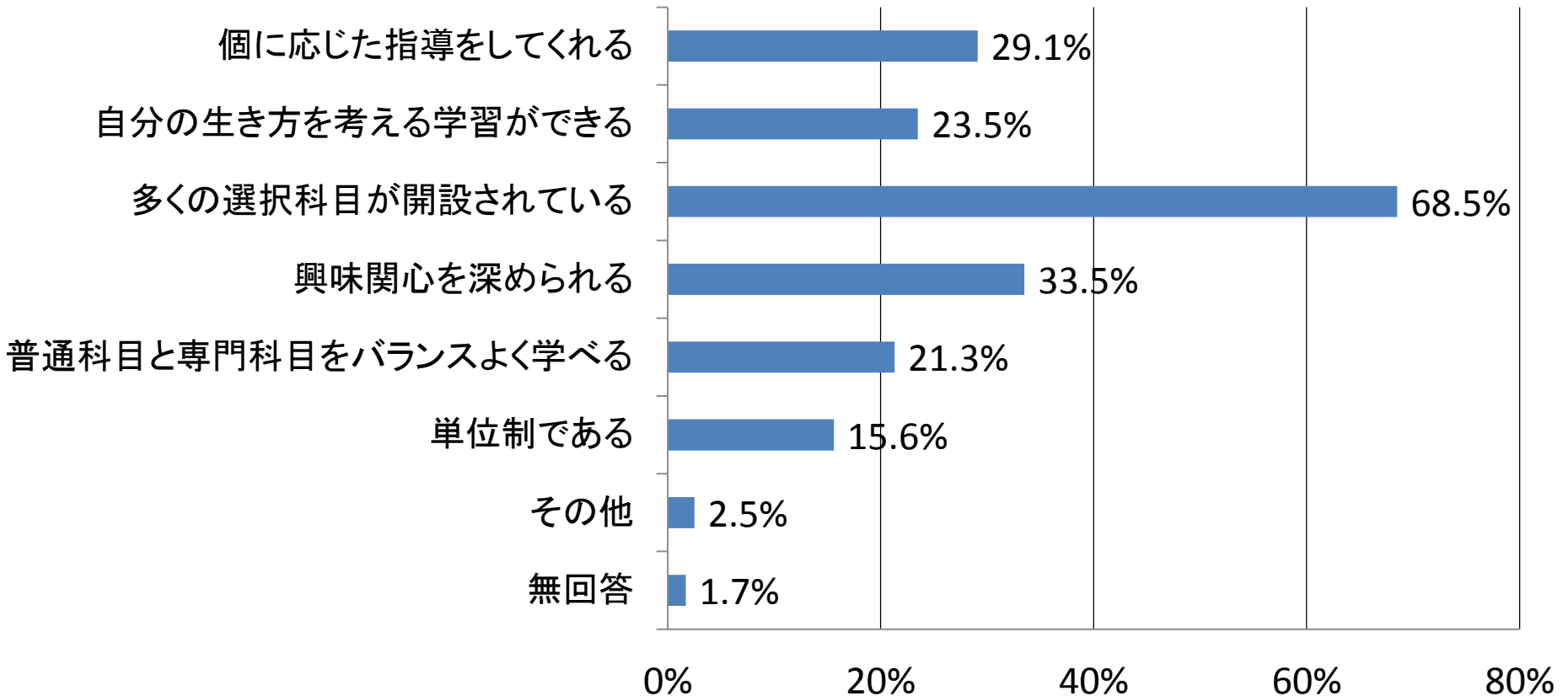


総合学科のイメージ

設問2

高等学校を選択するとき、「総合学科の高校」の特徴について、あなたはどのようなイメージを持っていましたか。

N=3703

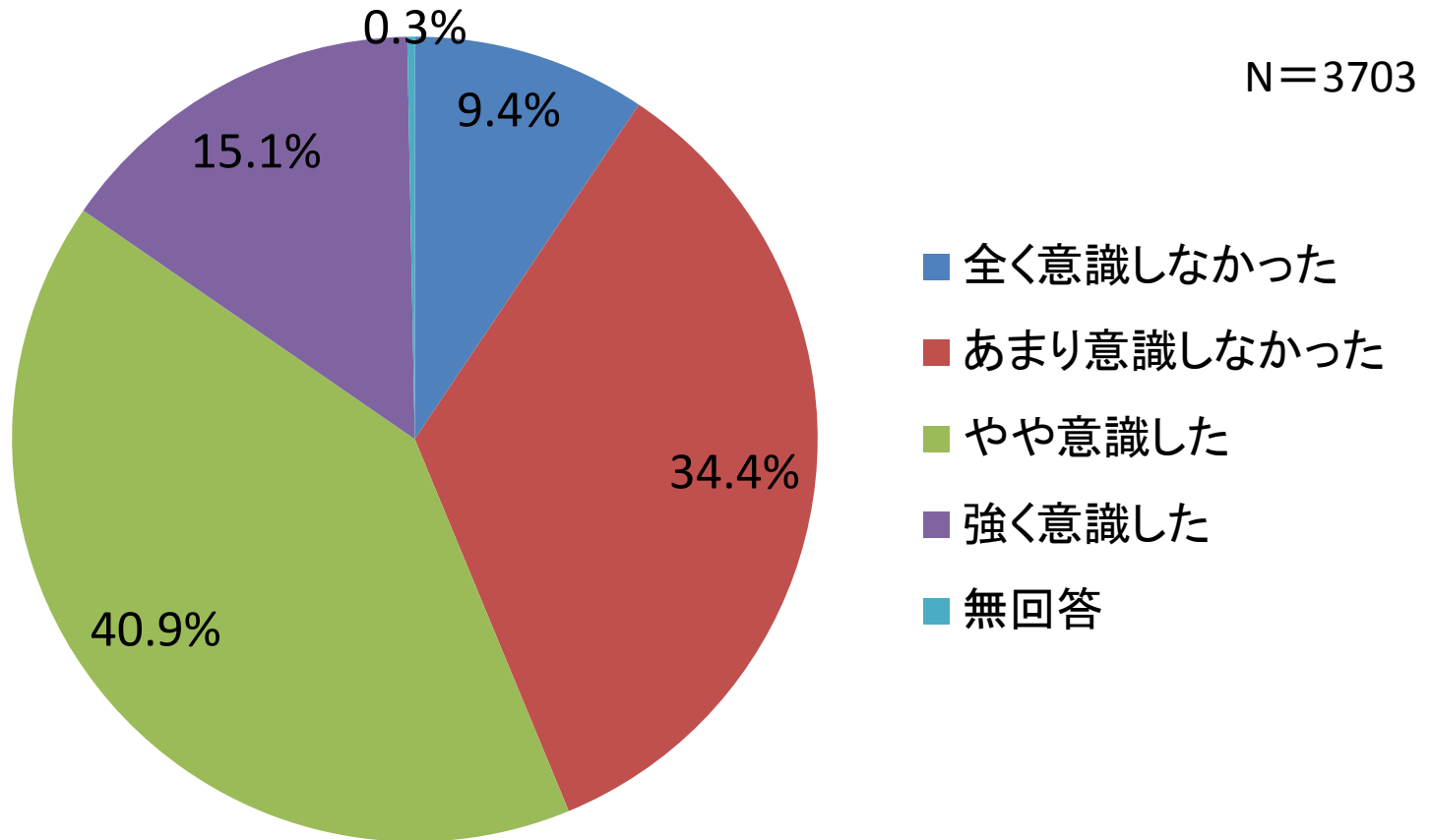


出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

総合学科への意識

設問3

高等学校を選択するとき、「総合学科の高校であること」をどの程度、意識しましたか。

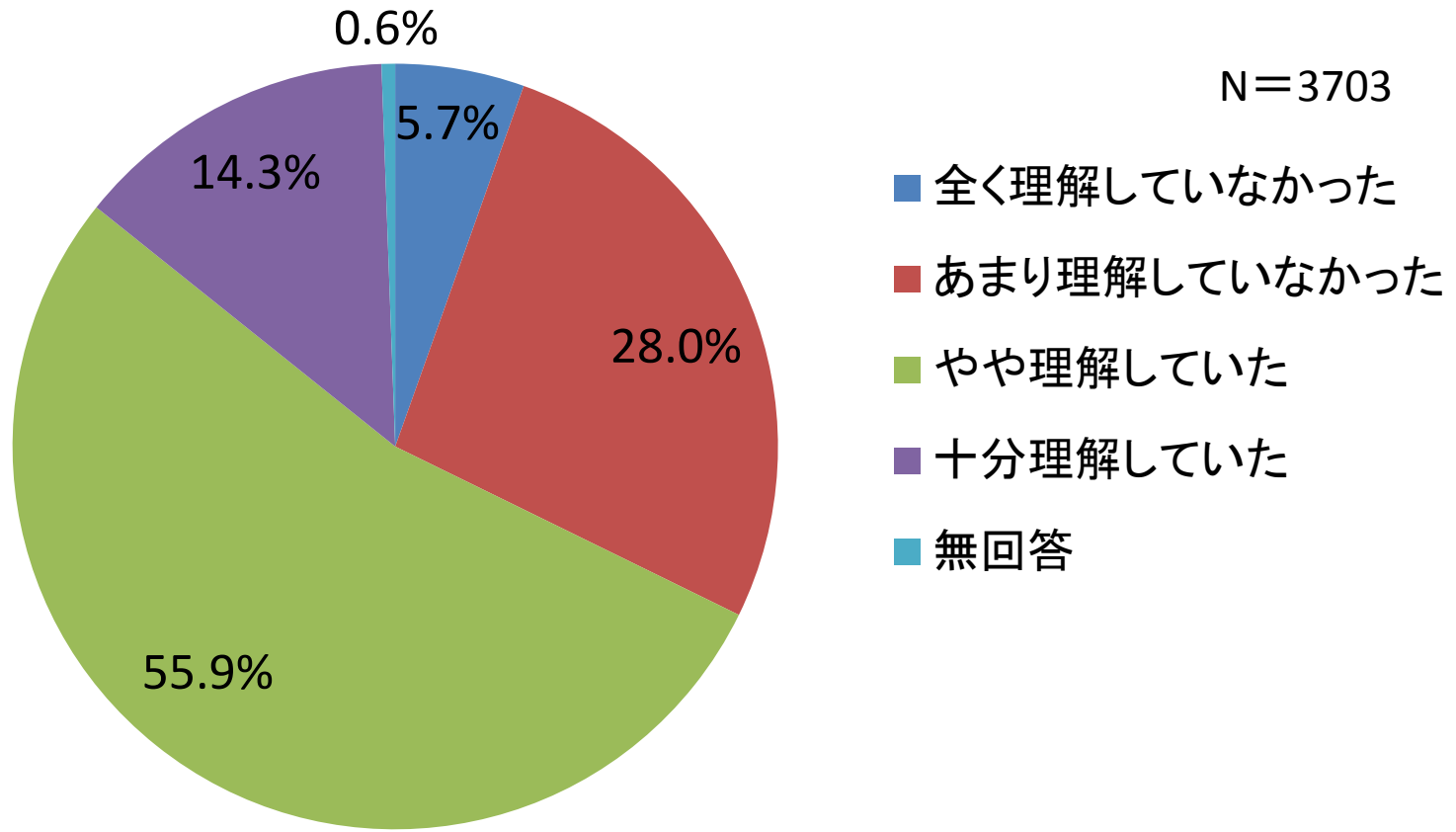


出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

高校選択時の総合学科の理解度

設問1

高等学校を選択するとき、「総合学科の高校」がどのような学校であるか、どの程度、理解していたと思いますか。



出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

入学前の理解度と学びの満足度

入学時に総合学科を理解して入学して入学した生徒は、総合学科の学びに対する満足度も高い。

		総合学科の学びに対する満足度		合計
		肯定的	否定的	
入学前の理解度	理解度高い	2233 (91.0%)	222 (9.0%)	2455
	理解度低い	757 (75.6%)	244 (24.4%)	1001
合計		2990	466	3456



中学校や中学生に対して、総合学科に対する理解度を高めていくことが重要。

総合学科への入学に当たって①

入学時の希望と総合学科の学びに対する満足度

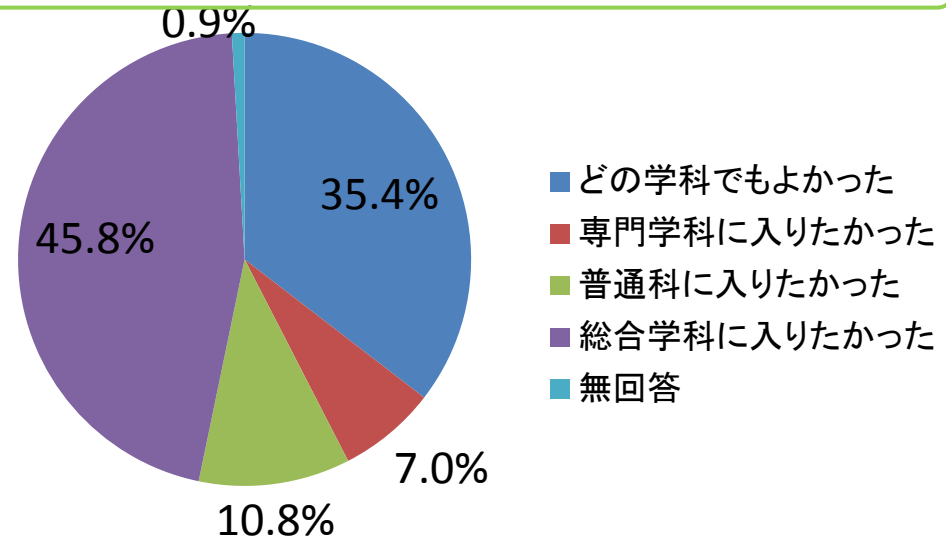
	総合学科希望者	その他	合計
肯定的回答	1521 94.6%	1462 79.3%	2983
否定的回答	86 5.4%	382 20.7%	468
合計	1607	1844	3451

総合学科にとって意欲の高い生徒を入学させるため、総合学科に対する理解の浸透を図ることが重要。

高校入学時の進路希望

	回答数	%
全体	3703	100.0
どの学科でもよかった	1312	35.4
専門学科に入りたいかった	260	7.0
普通科に入りたいかった	400	10.8
総合学科に入りたいかった	1697	45.8
無回答	34	0.9

○総合学科に入学したいという希望をもって入学する生徒は5割に満たない。

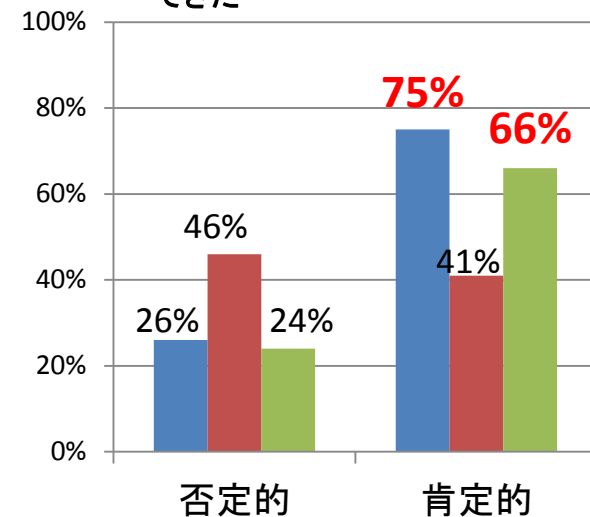
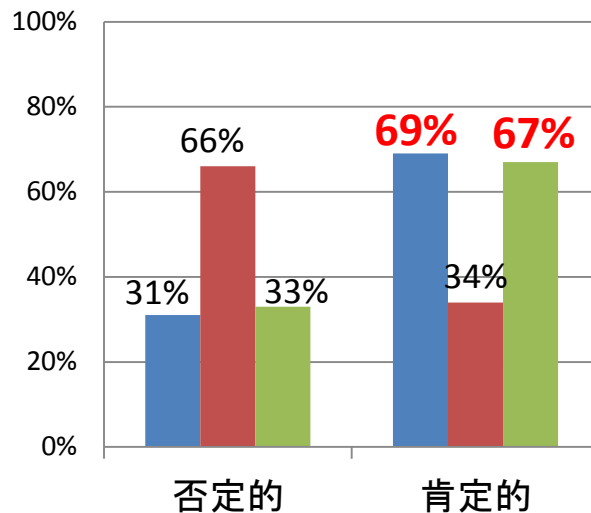
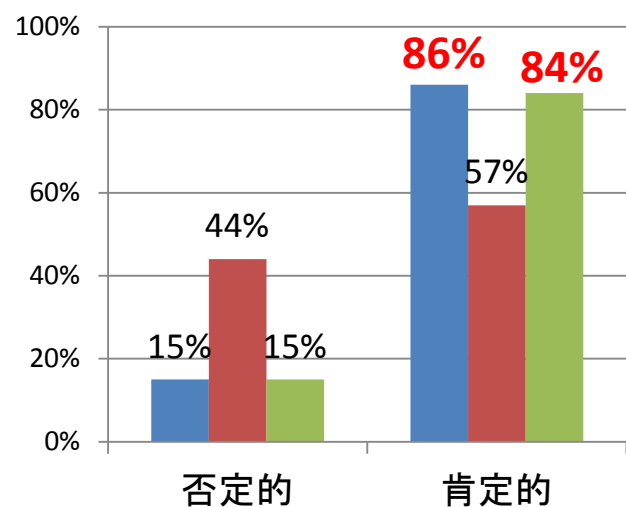


総合学科への入学に当たって②

Q16.6 自分の好きなことを見つけることができた

Q16.7 自分に自信を持つことができた

Q16.8 学ぶことの楽しさを理解することができた

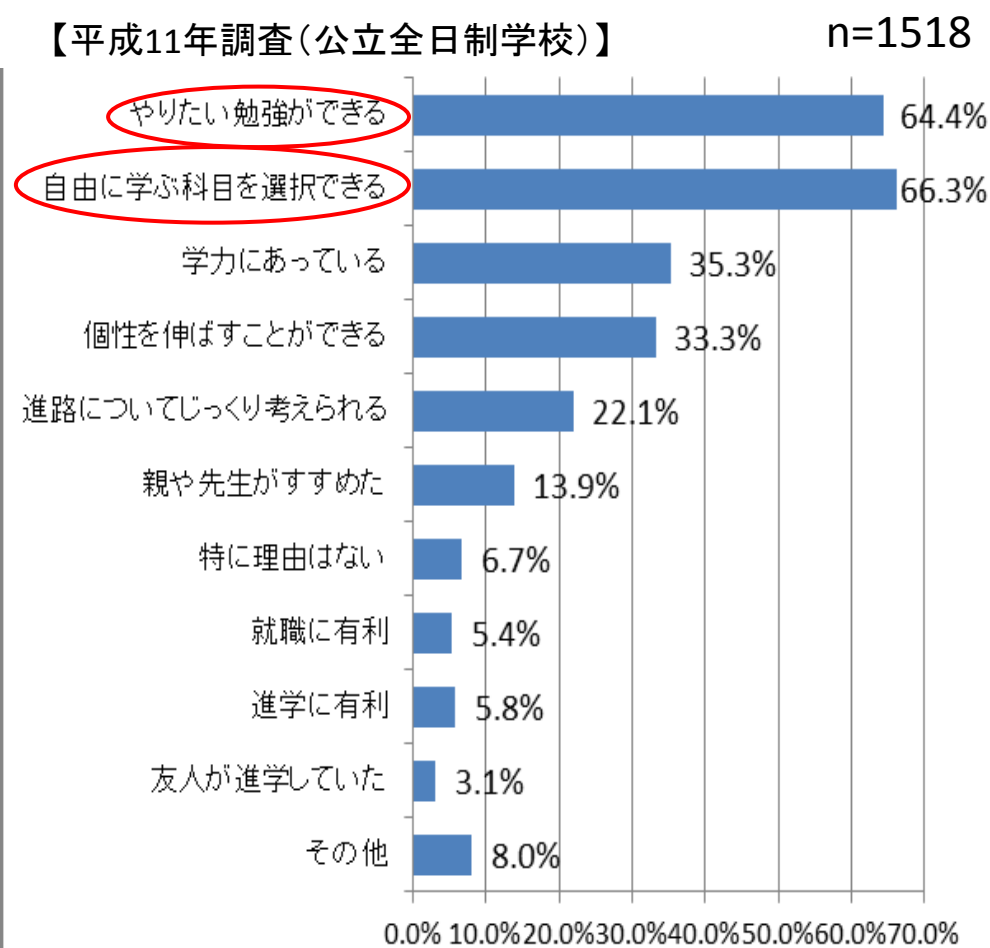
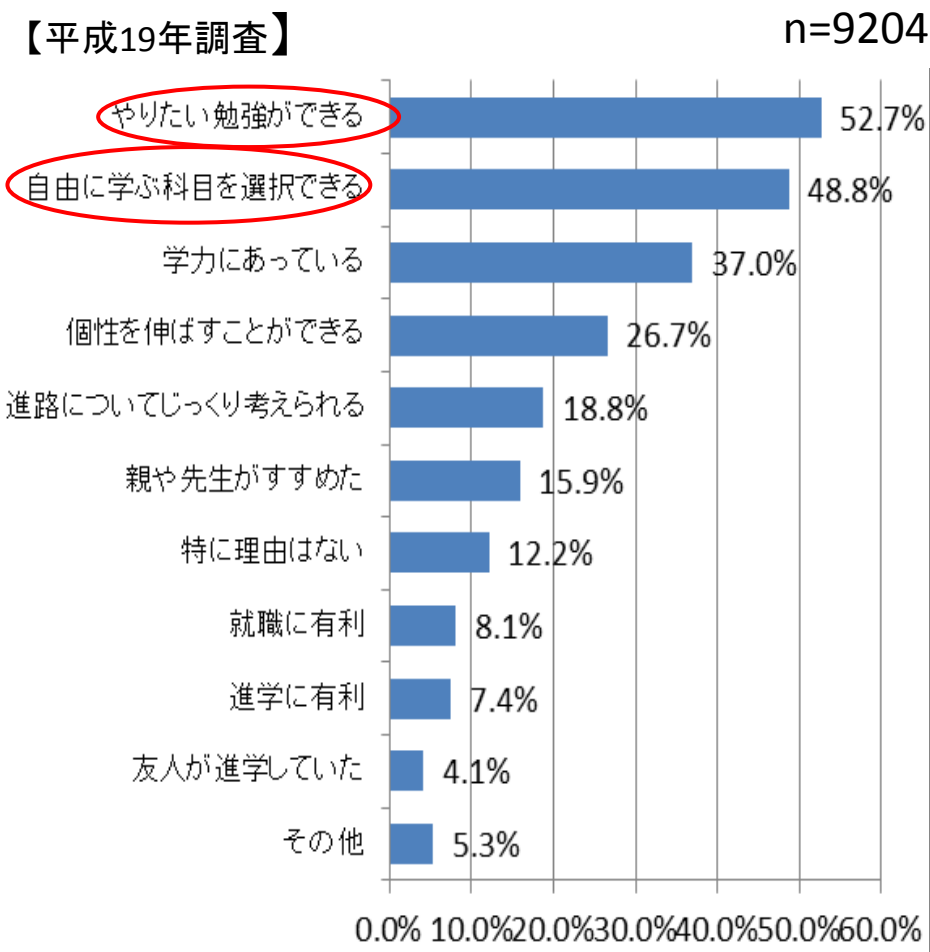


- 「どの学科でもよかった」と回答した生徒のうちの産社充実層
- 「どの学科でもよかった」と回答した生徒のうちの産社非充実層
- 「総合学科に入りたかった」と回答した生徒

- 入学時に、高校進学に対してはっきりとした意欲がなくても、「産業社会と人間」の授業を充実して受けることができれば、意欲を持って入学してくる生徒と変わらないかそれ以上の学習成果を上げることができる。
- 逆に「産業社会と人間」の授業に対して充実感を上げることができないと、学習の成果を上げることができない生徒が多い。

総合学科を選んだ理由

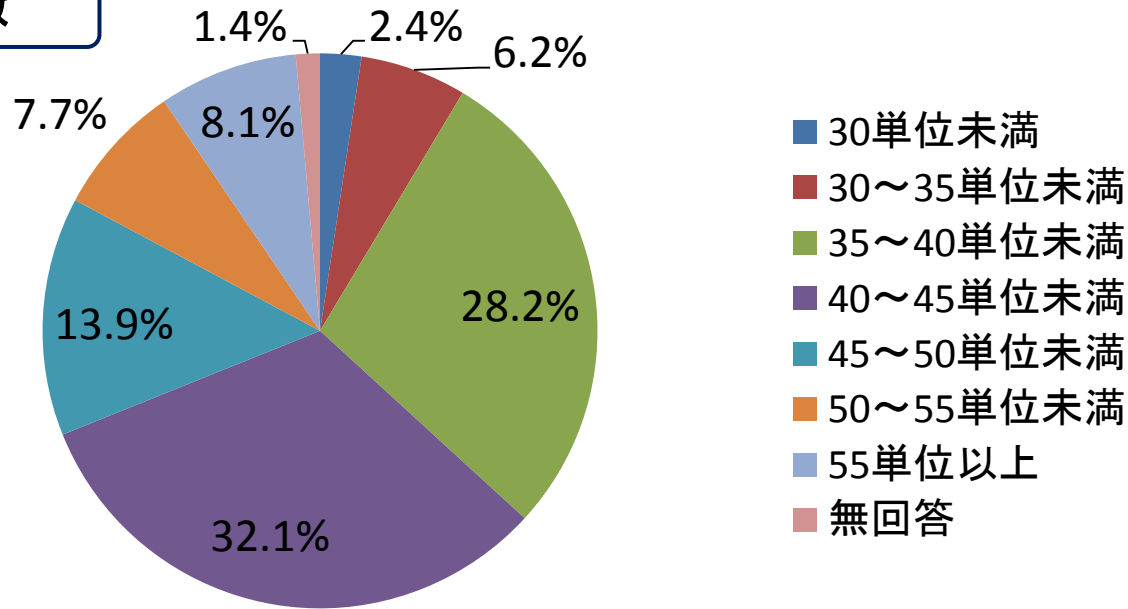
○ 総合学科を選んだ理由として、自由に学ぶ科目を選択できるからと回答した割合が15%以上減少。また、やりたい勉強ができると回答した割合も10%以上減少。



3. 授業について

教育課程の特色

必修科目の単位数



代表的な必修科目(国語・数学・外国語)

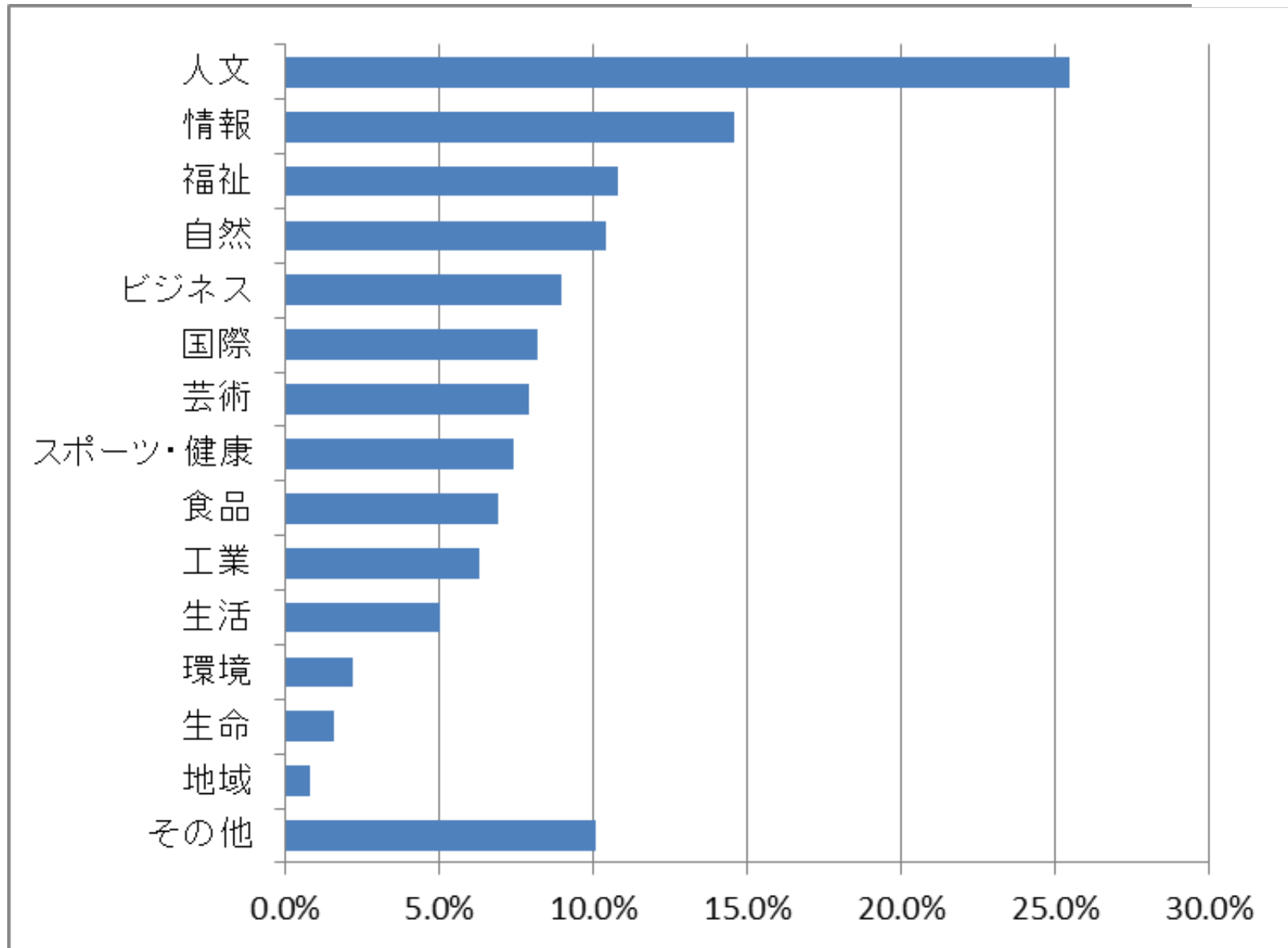
教科名	科目名	学校数	割合	科目名	学校数	割合
国語	現代文	31校	14.8%	国語表現	2校	1.0%
数学	数学A	21校	10.0%	数学Ⅱ	3校	1.4%
外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	10校	4.8%	英語Ⅱ	22校	10.5%

出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」

総合学科の在り方に関する調査研究 第4章 総合学科の校長への質問紙調査による総合学科の現状と課題

主に選択している科目（系列）分野

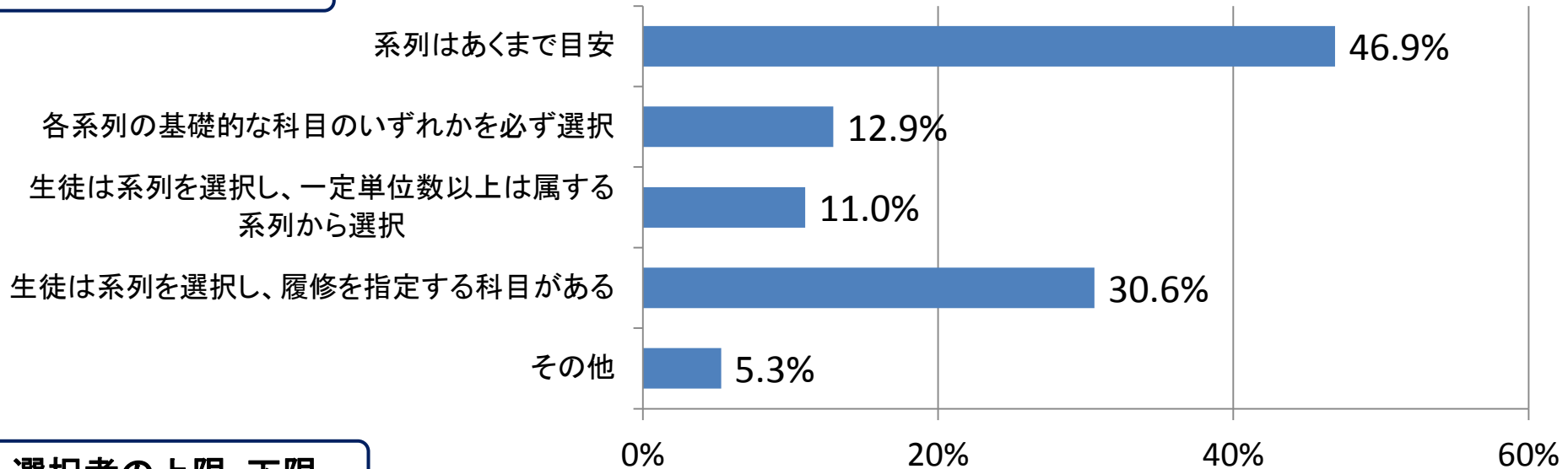
n=9025



系列の位置付けと科目選択

※「系列」・・・総合学科選択科目群(生徒にある程度のまとまりのある学習を可能にするとともに、生徒自身の進路の方向に沿った科目履修ができるようにするため、体系的や専門性等において相互に関連する普通科目及び専門科目をまとめた科目群。生徒が科目選択を行っていく際の履修上の指針。

「系列」の位置付け



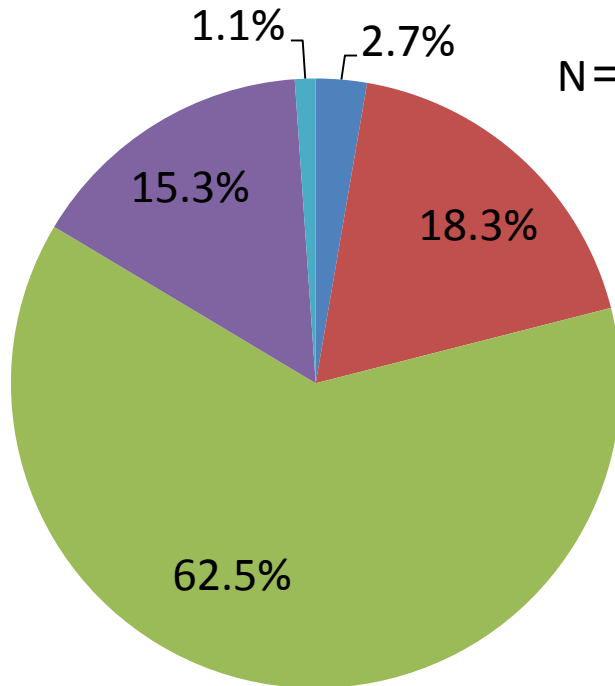
選択者の上限・下限

	定めている		平均人数	定めていない	
	校数	割合		校数	割合
上限	105校	50.2%	34.7人	94校	45.0%
下限	152校	72.7%	7.3人	55校	26.3%

出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第4章 総合学科の校長への質問紙調査による総合学科の現状と課題

ガイダンス機能の充実度

科目を選択する時に科目選択のためのガイダンスがどの程度充実していたか



N=3703

- 全く充実していなかった
- あまり充実していなかった
- やや充実していた
- とても充実していた
- 無回答

○ 「とても充実していた」「やや充実していた」を合わせると、肯定的回答が77.8%。

○ 一方で、自由記述において

「科目選択の仕方がわかりにくい」「科目選択が急すぎる」

「取りたい科目が抽選で取れなかった」

「科目選択で思ったより取りたい科目が取れない」

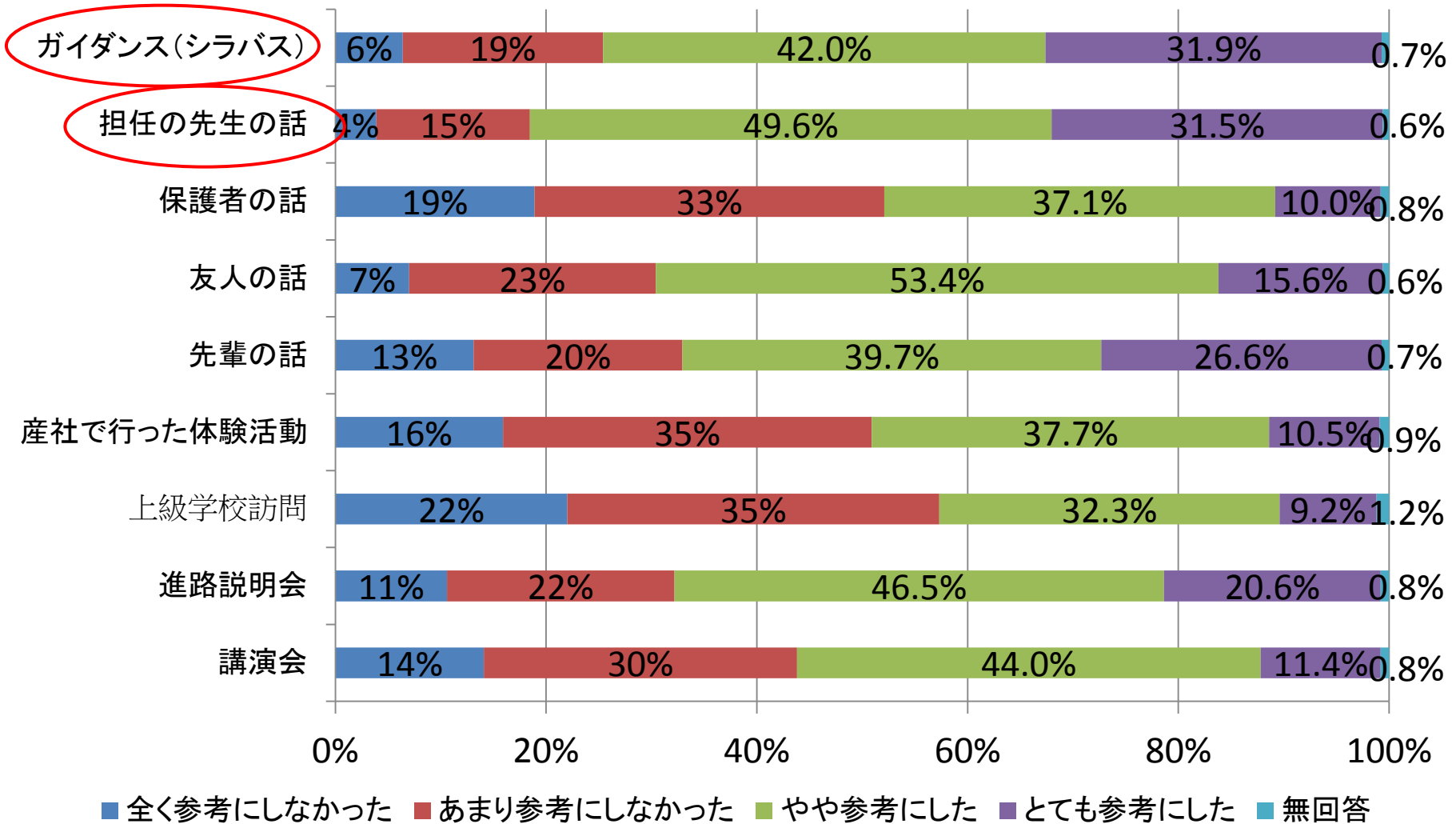
「将来の夢が変わったら、時間割変更をすんなりできるようにしてほしい」

「先生が理解していなさすぎ。学年の先生たちももっと担当の先生に聞きに行ったりした方がいいと思う」

といった問題点について回答がなされている。

科目選択の際に参考にしたもの

N=3703

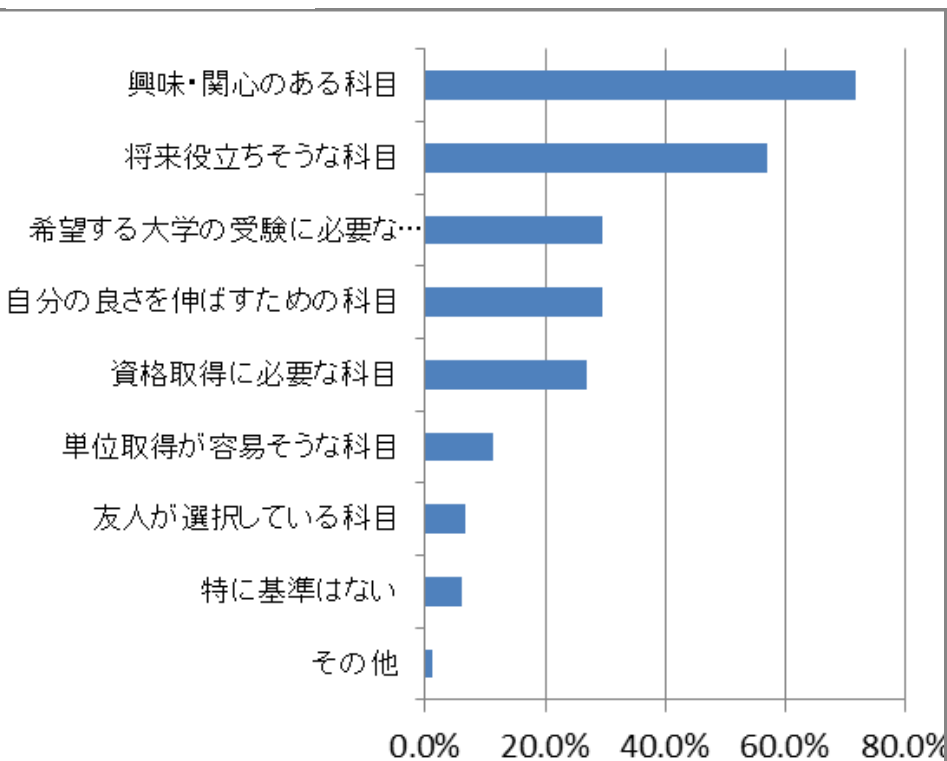


出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

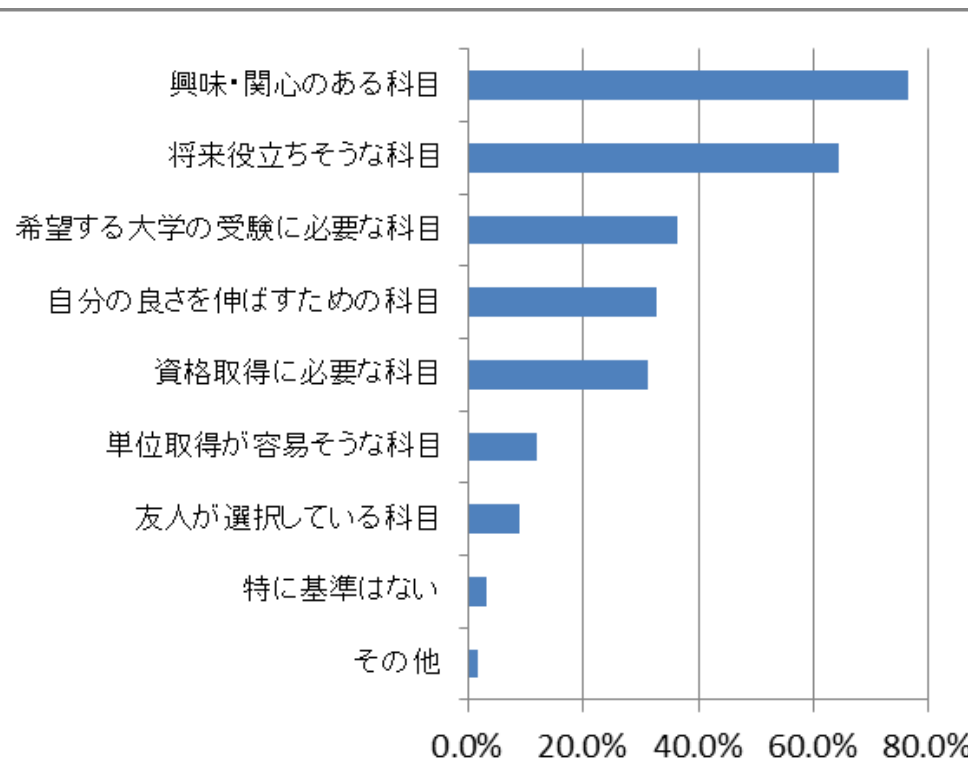
自分の選択する科目を決める基準

○ 選択する科目を決める基準については、平成19年調査と平成11年調査では、大きな違いは見られない。

【平成19年調査】

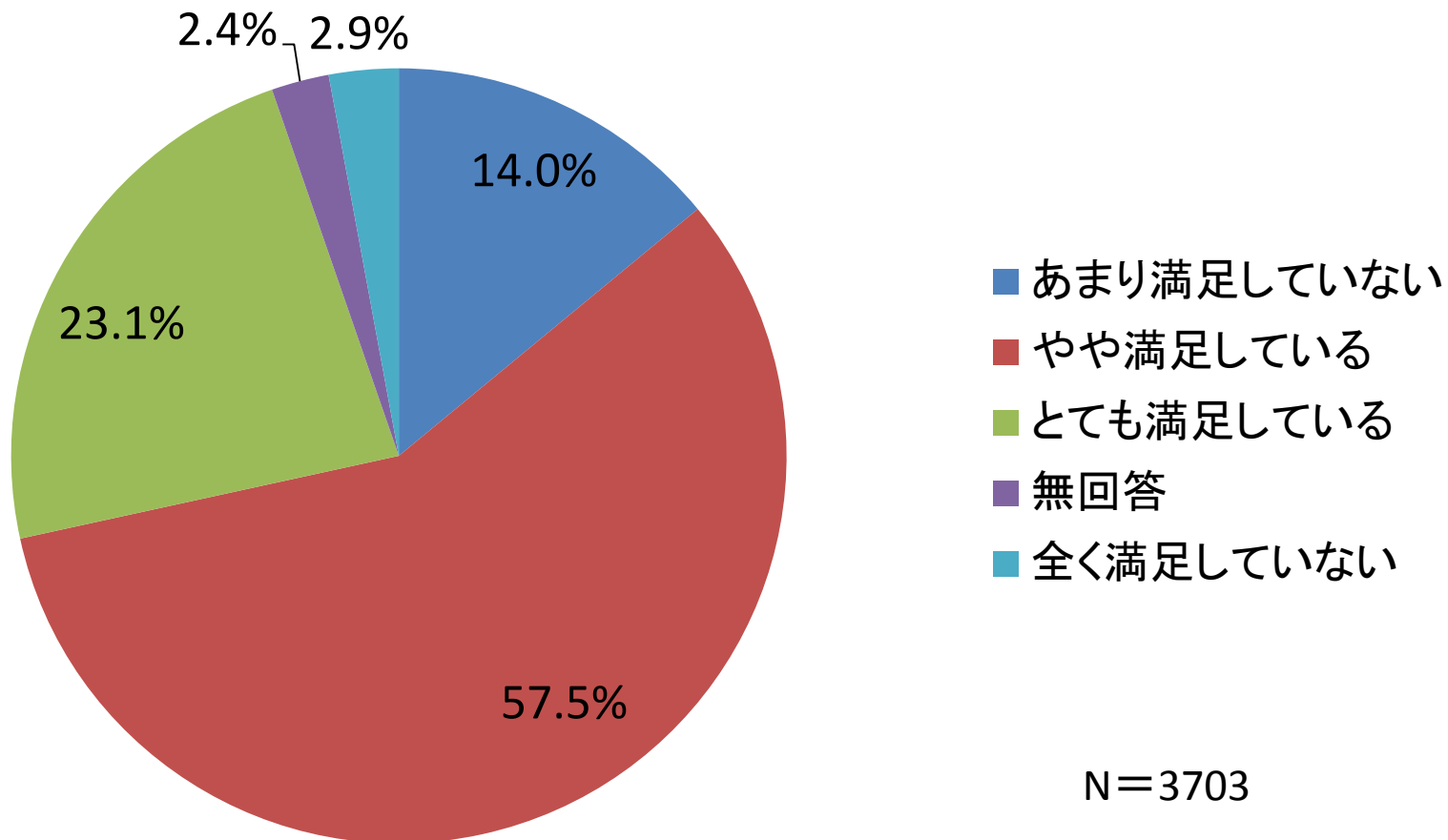


【平成11年調査(公立全日制学校)】



科目選択の満足度

○ 科目選択に対しては、8割以上の生徒が満足している。

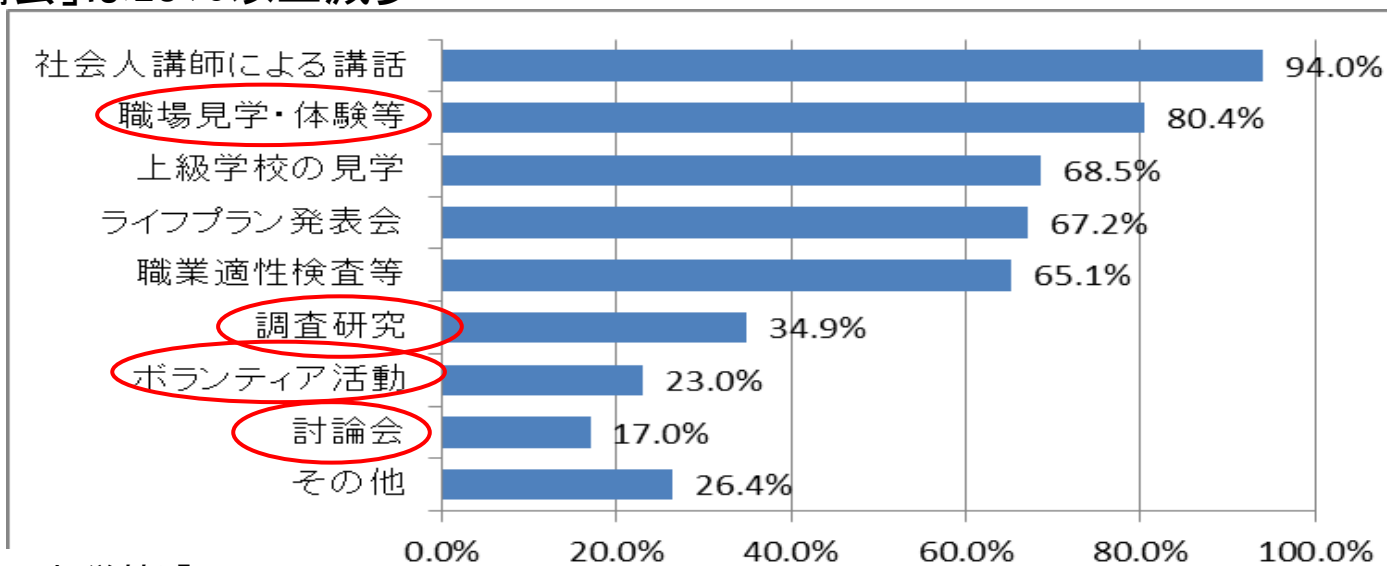


出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

「産業社会と人間」の年間指導計画における活動

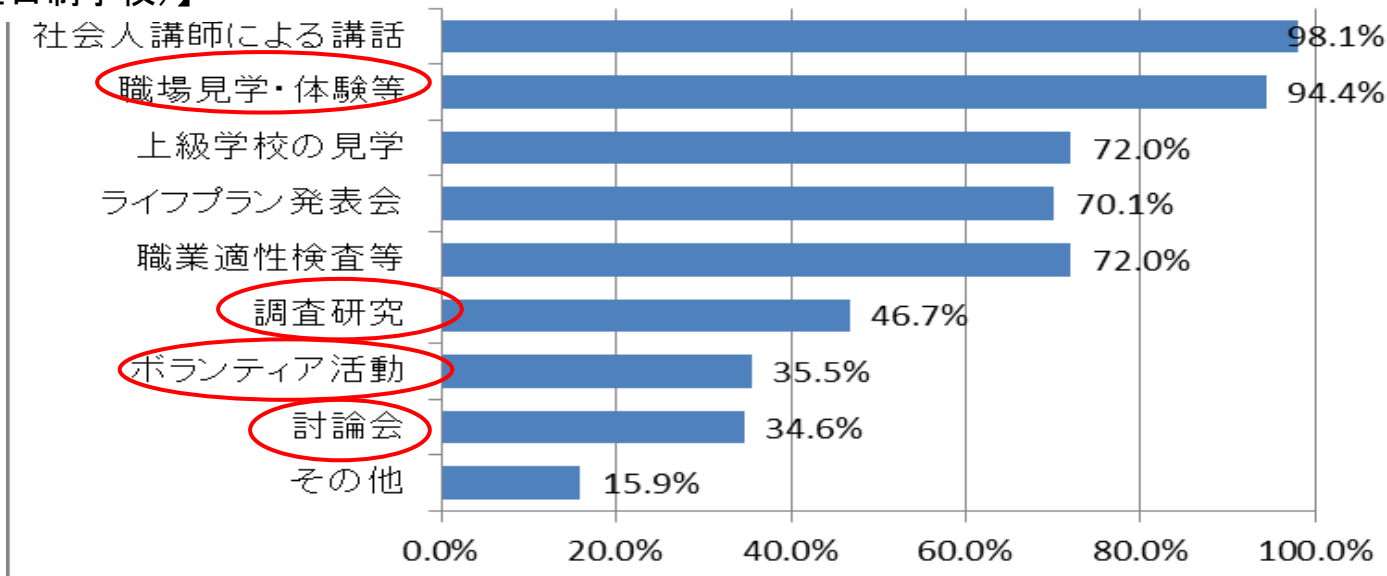
○「その他」以外の全ての項目の割合が減少。特に「職場見学・体験等」「調査研究」「ボランティア活動」「討論会」は10%以上減少

【平成19年調査】



n=235

【平成11年調査(公立全日制学校)】

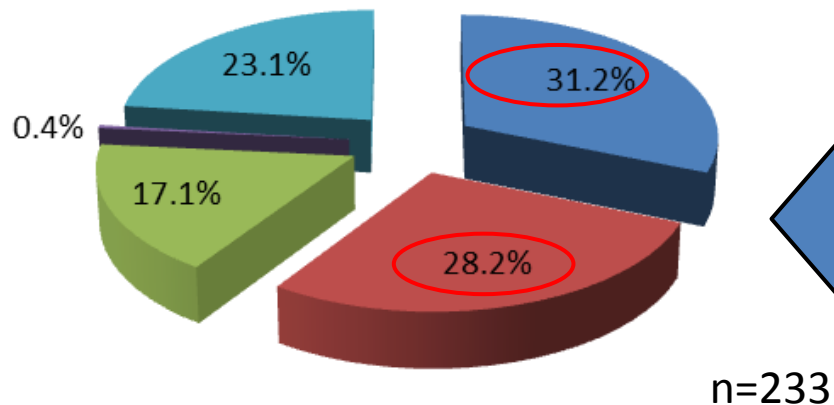


n=107

「産業社会と人間」の指導体制①

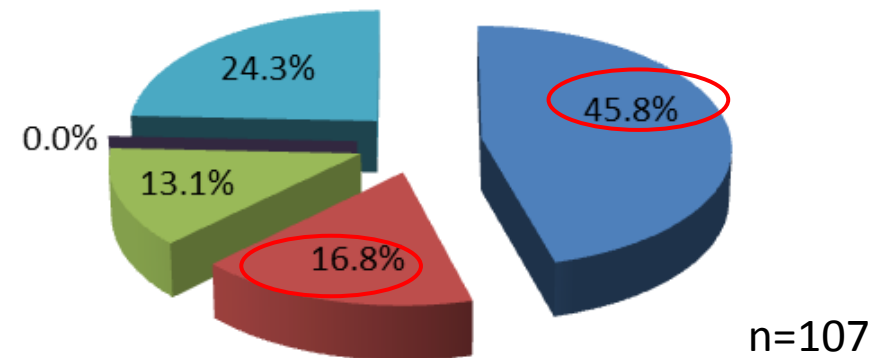
○ 産業社会と人間の指導体制については「ホームルーム担任のみ」が10%以上増加したのに対し、「ホームルーム担任と他の1名の教員によるチーム・ティーチング」は15%以上減少。

【平成19年調査】



- ホームルーム担任と他の1名の教員によるチーム・ティーチング
- ホームルーム担任のみ(副担任を含む)
- 「産業社会と人間」担当教員を別に決めている
- 進路指導担当教員
- その他

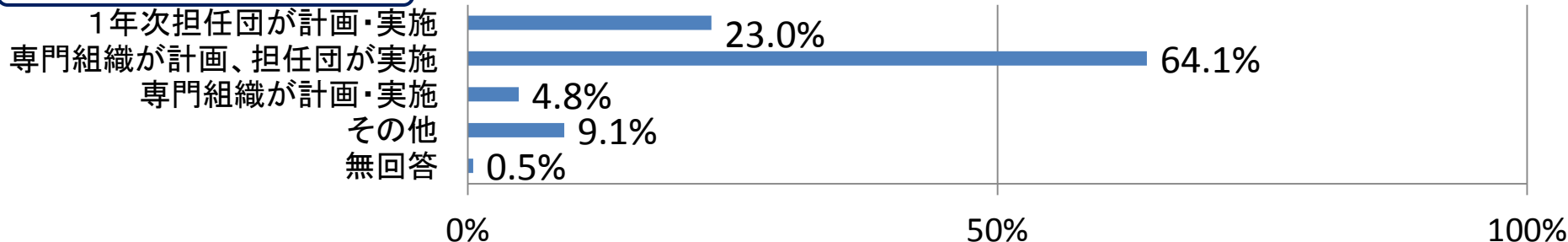
【平成11年調査(公立全日制学校)】



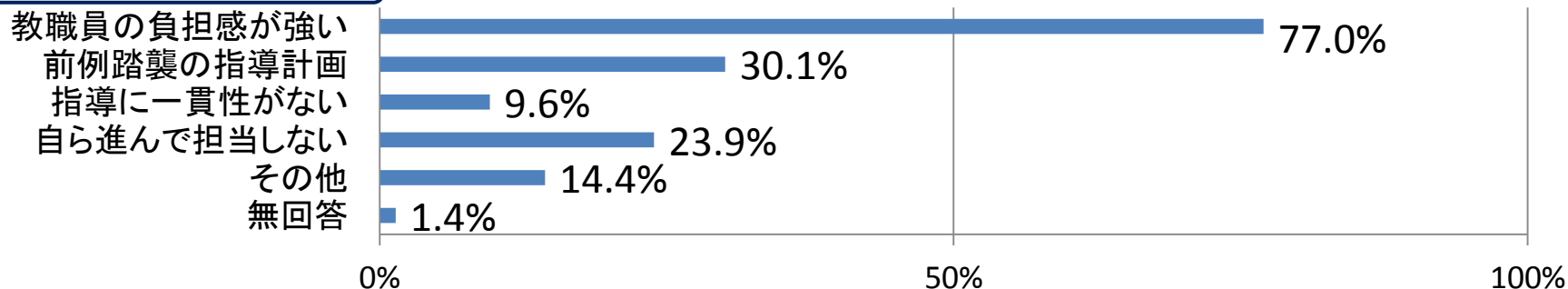
- ホームルーム担任と他の1名の教員によるチーム・ティーチング
- ホームルーム担任のみ(副担任を含む)
- 「産業社会と人間」担当教員を別に決めている
- 進路指導担当教員
- その他

「産業社会と人間」の指導体制②

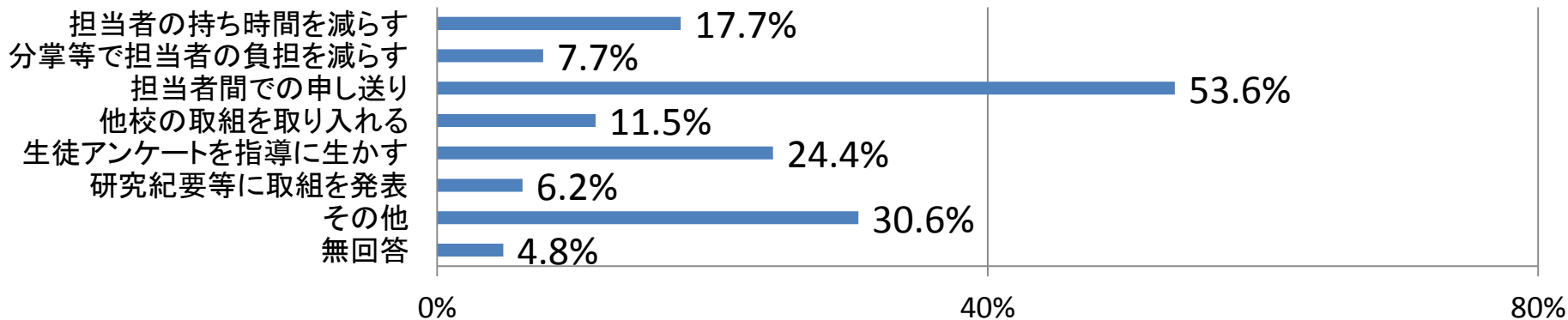
「産業社会と人間」指導体制



「産業社会と人間」運営の課題



「産業社会と人間」運営の改善点



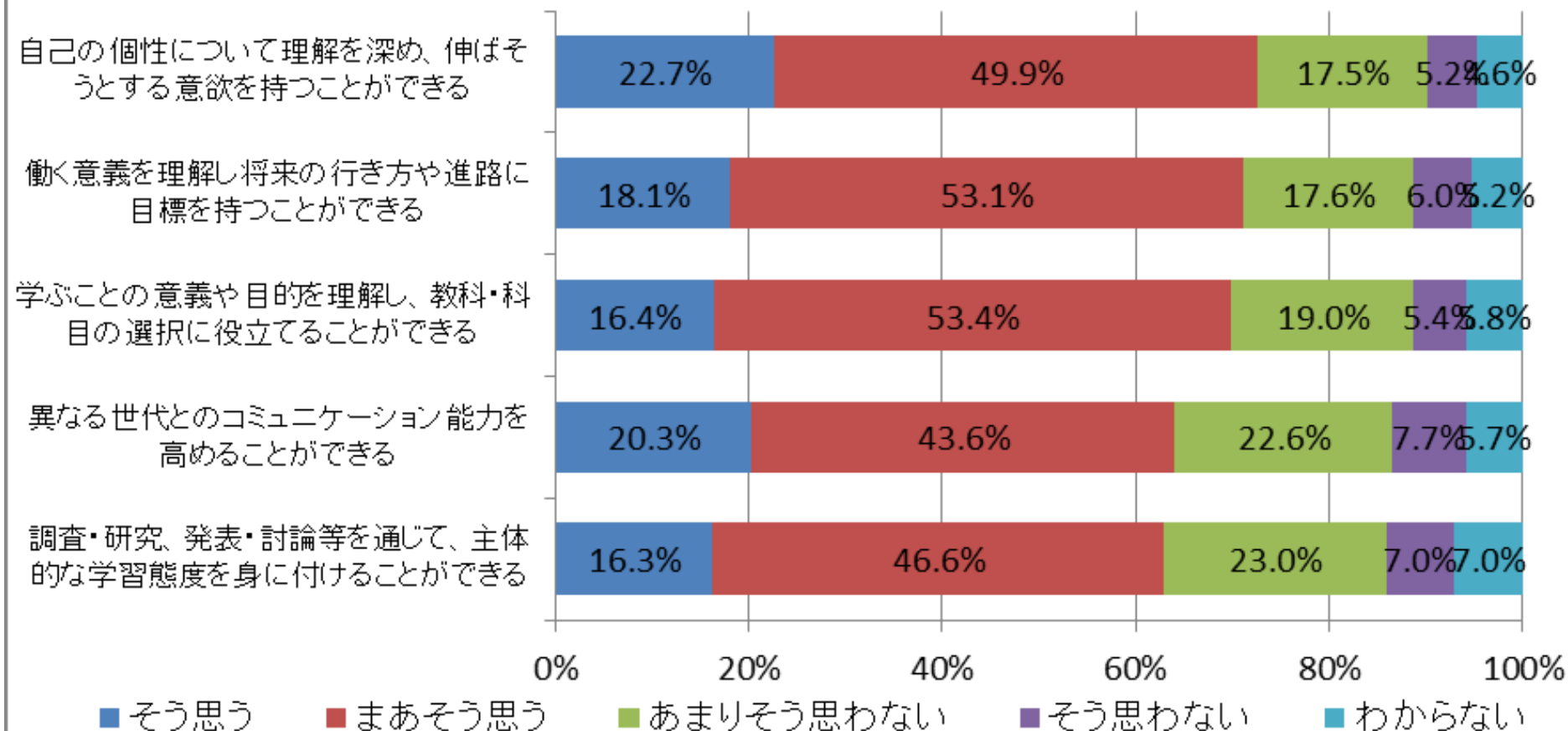
出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」

総合学科の在り方に関する調査研究 第4章 総合学科の校長への質問紙調査による総合学科の現状と課題

「産業社会と人間」を学ぶ意義①

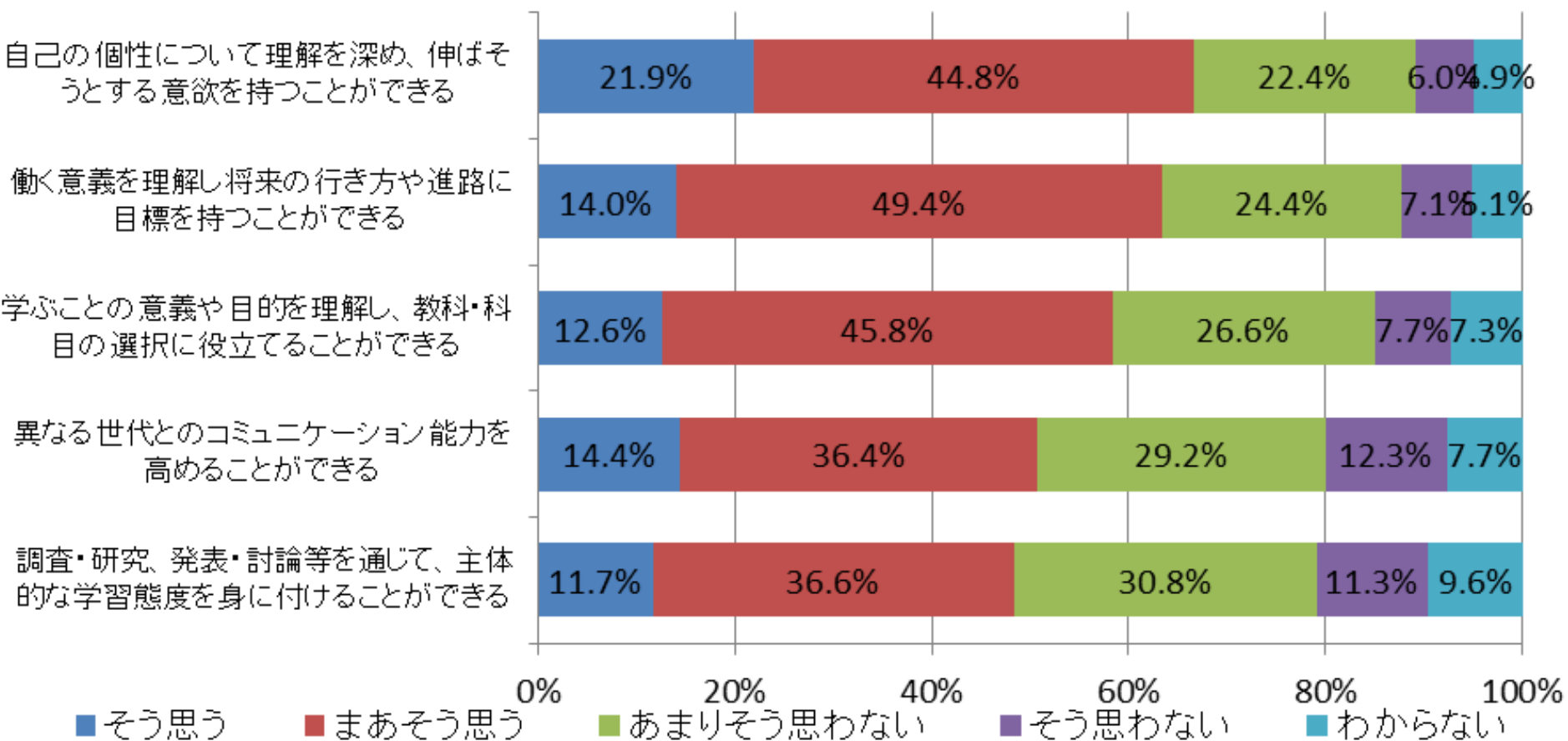
○ 産業社会と人間を学ぶ意義は全ての項目において肯定的な回答が7割前後。また平成11年調査と比べても全ての項目で肯定的回答の割合が高くなっている。

【平成19年調査】



「産業社会と人間」を学ぶ意義②

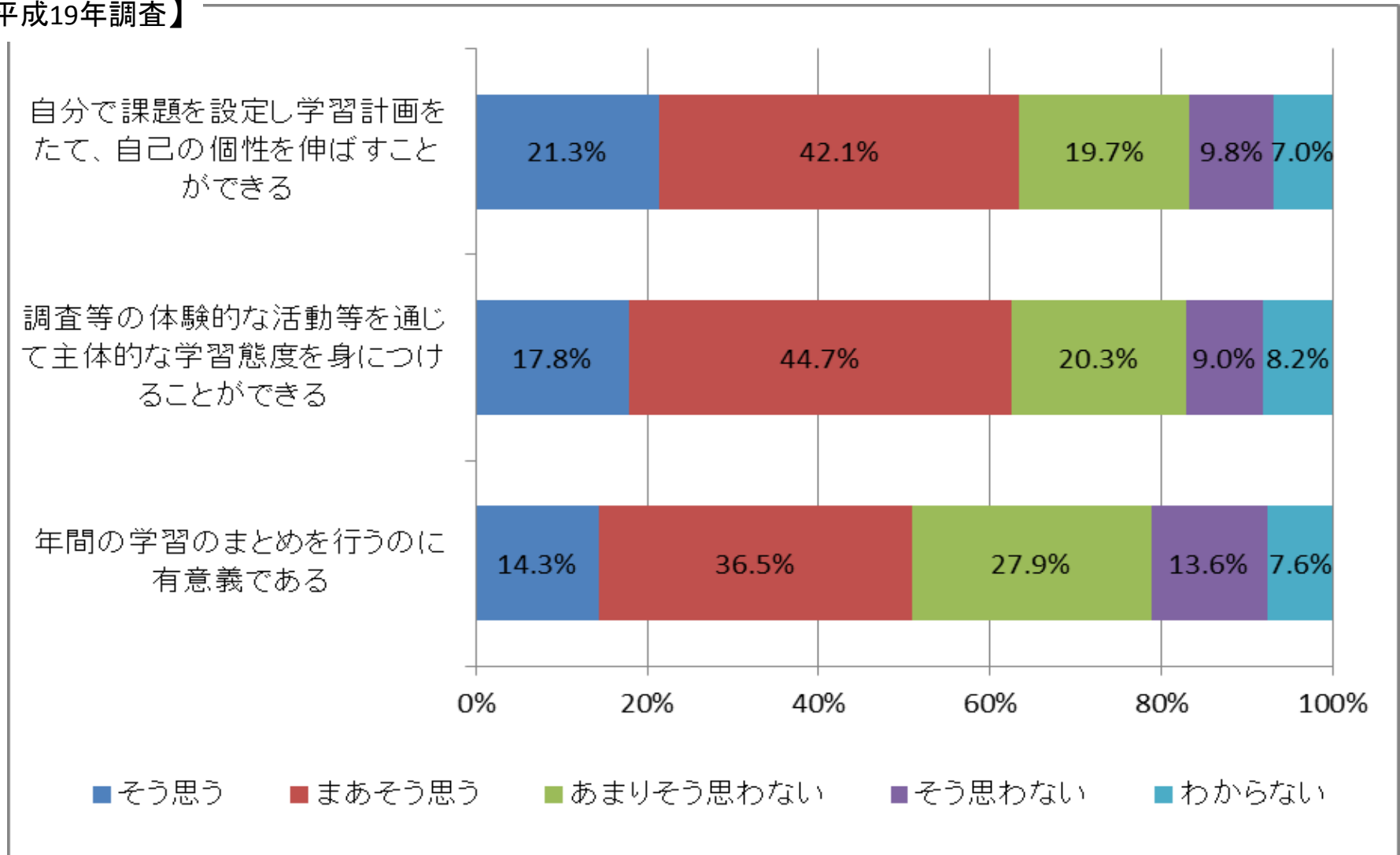
【平成11年調査
(公立全日制学校)】



「課題研究」を行う意義①

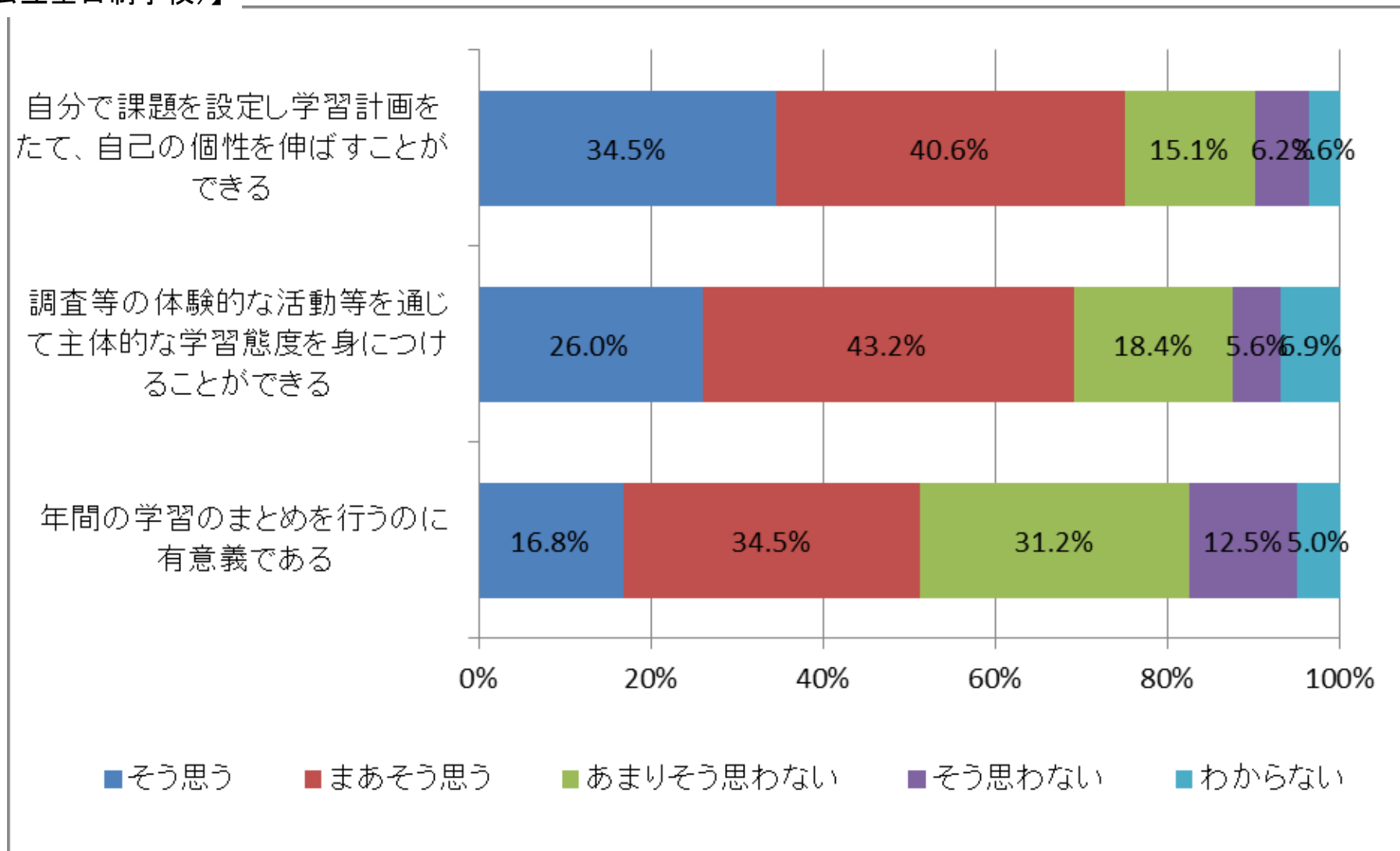
○ 課題研究を行う意義は全ての項目において肯定的な回答が5割以上。しかしながら、平成11年調査の方が2つの項目について肯定的回答の割合が高い。

【平成19年調査】



「課題研究」を行う意義②

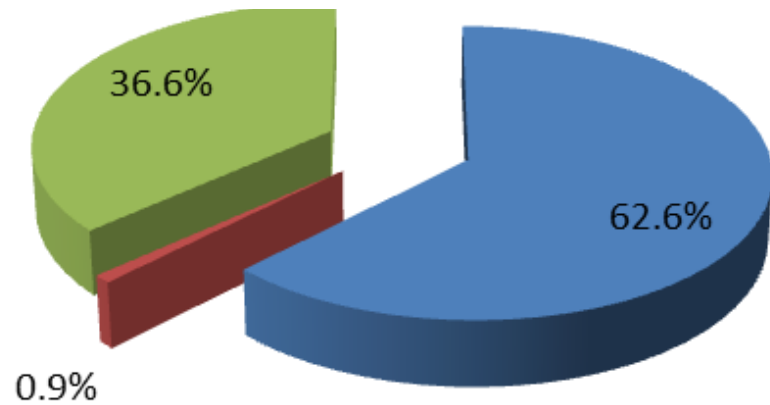
【平成11年調査
(公立全日制学校)】



総合学科における学校外での学修の単位認定

- 学校外の学修による単位認定を行っている学校は平成11年調査と比べて大幅に増えている。(増加率は2倍を超える。)

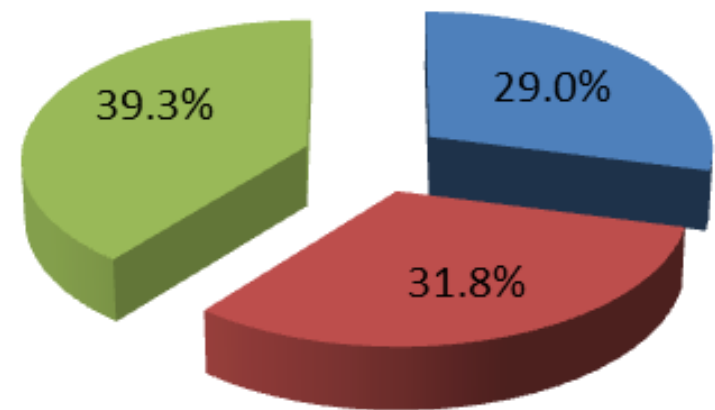
【平成19年調査】



■ 実施している
■ 実施したことはない

■ 以前は実施していた

【平成11年調査(公立全日制学校)】



■ 実施している
■ 実施予定
■ 実施予定なし

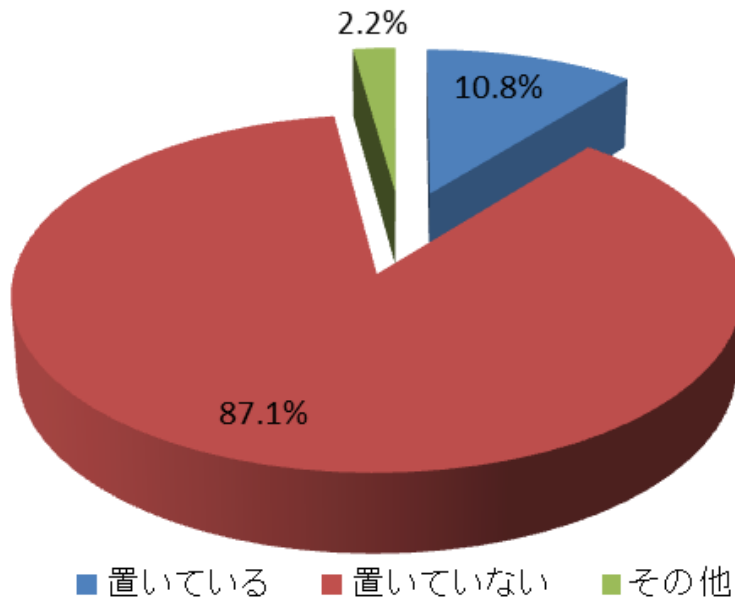
4. 進路について

科目選択や進路についての相談を担当する専任カウンセラーの配置

○ 科目選択や進路を相談できる専任カウンセラーの配置は全体の割合を見ると少ないが、増えている。

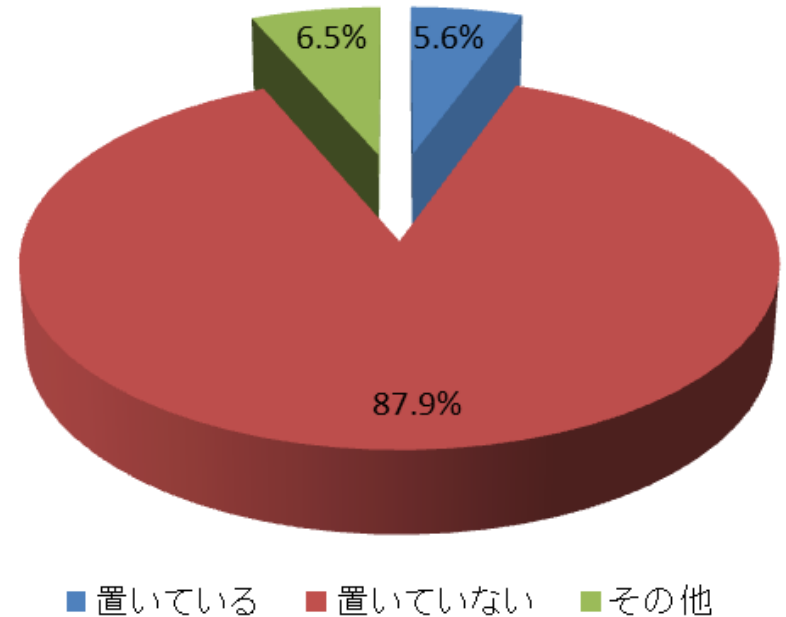
・ 科目選択や進路についての相談を担当する専任カウンセラーの配置

【平成19年調査】



n=232

【平成11年調査(公立全日制学校)】



n=107

高校卒業後の進路決定①

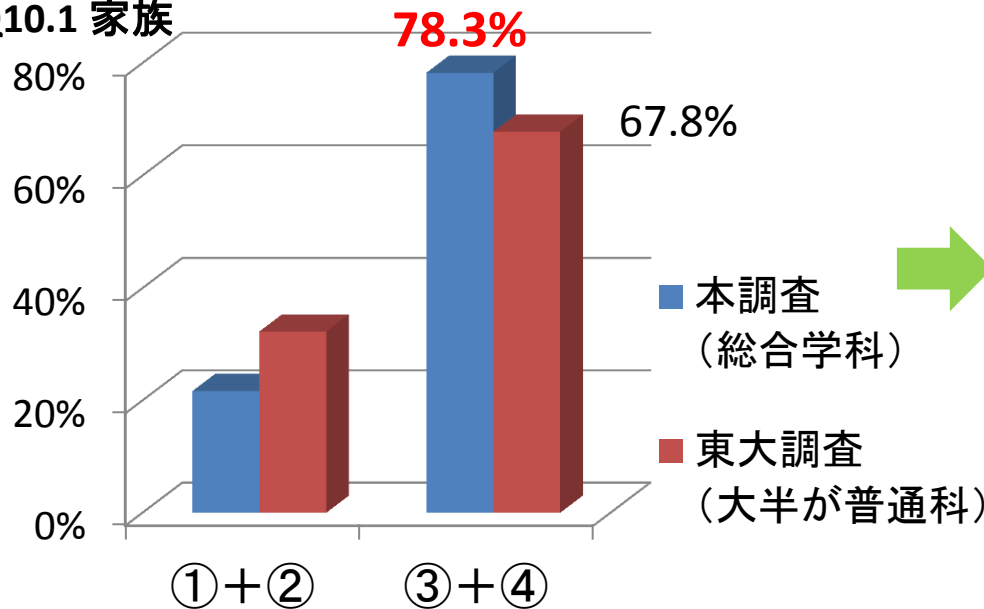
設問10

高校卒業後の進路を考える上で、次の項目はどの程度影響があったと思いますか。

※各項目について、あてはまる番号(④とても影響があった ③やや影響があった ②あまり影響はなかった ①全く影響はなかった)を1つ回答。

- 1)家族 2)友だち 3)「産業社会と人間」などの授業 4)学校の進路指導 5)学校の先生
6)塾や予備校の先生 7)就職ガイドブックなど 8)企業訪問・職場見学など
9)学校のガイドブックなど 10)学校主催のオープンキャンパス

Q10.1 家族



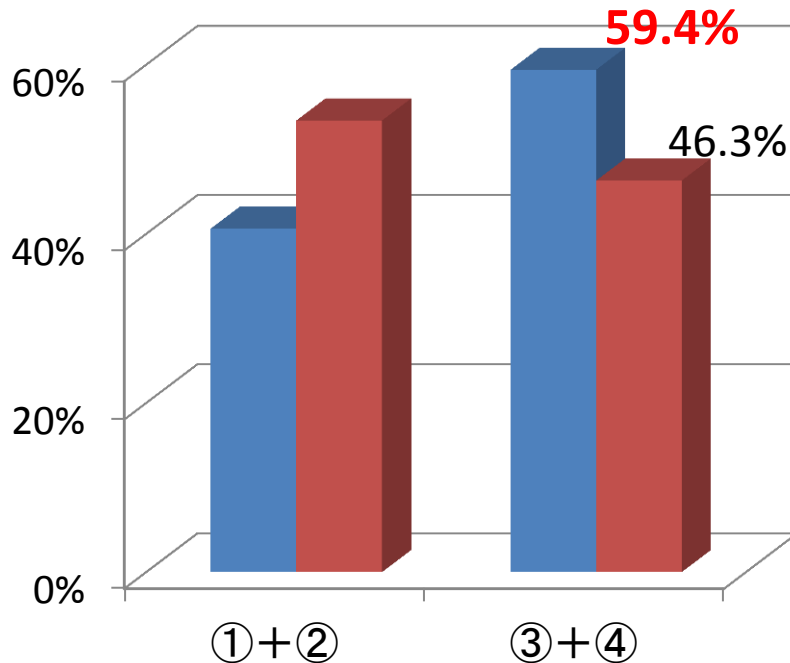
総合学科の生徒は一般の高校生よりも家族の影響を受けているといえる。

出典：○平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査 (※「本調査」)
○高校生の進路についての調査(※「東大調査」) <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat81/post-1.html>
(2005年11月 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター)

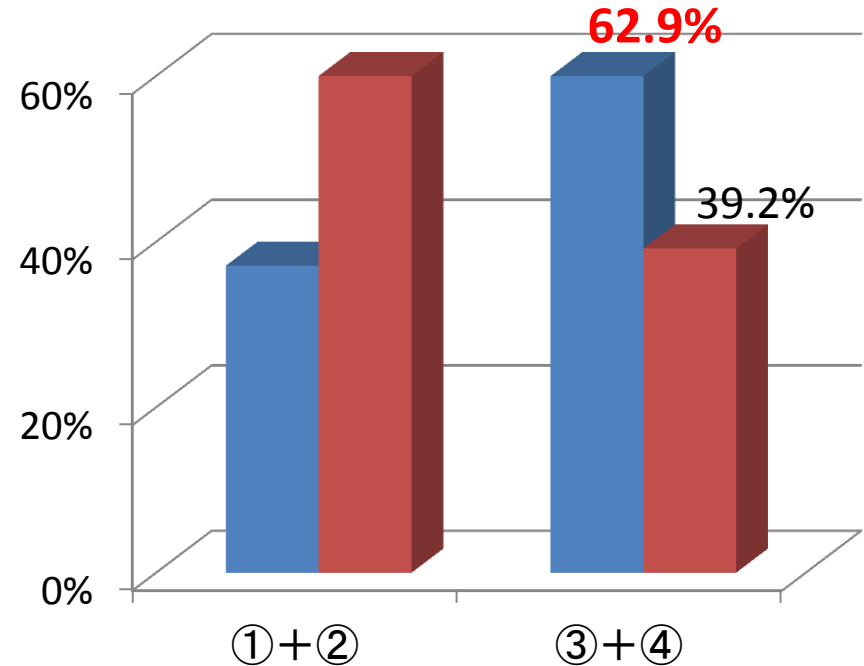
高校卒業後の進路決定②

総合学科の生徒は、卒業後の進路を考える上で、約6割の生徒が学校の進路指導や学校の先生の影響も受けている。

Q10.4 学校の進路指導



Q10.5 学校の先生



■ 本調査(総合学科) ■ 東大調査(大半が普通科)



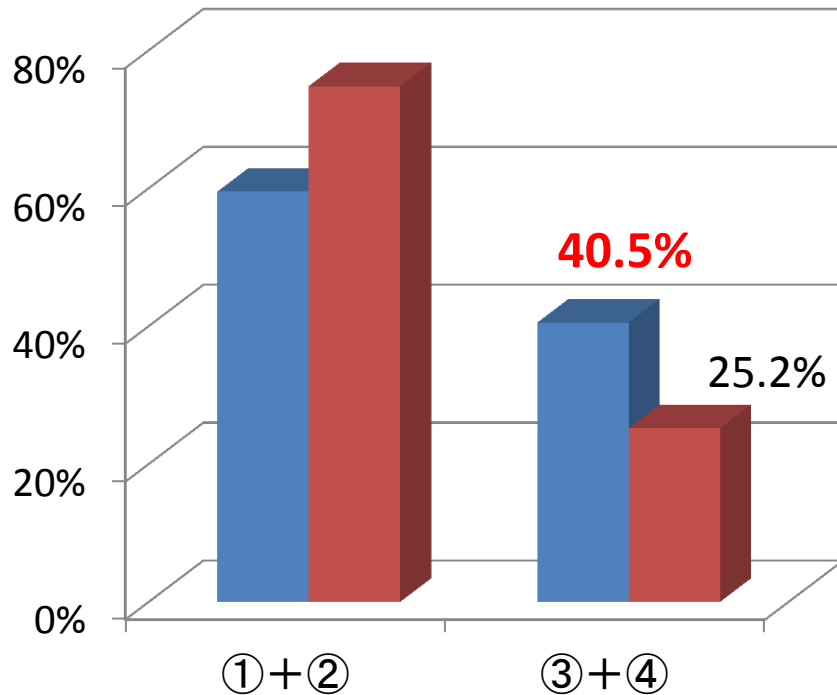
より一層の学校における進路指導体制の充実が望まれる。

出典：○平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査 (※「本調査」)
○高校生の進路についての調査(※「東大調査」) <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat81/post-1.html>
(2005年11月 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター)

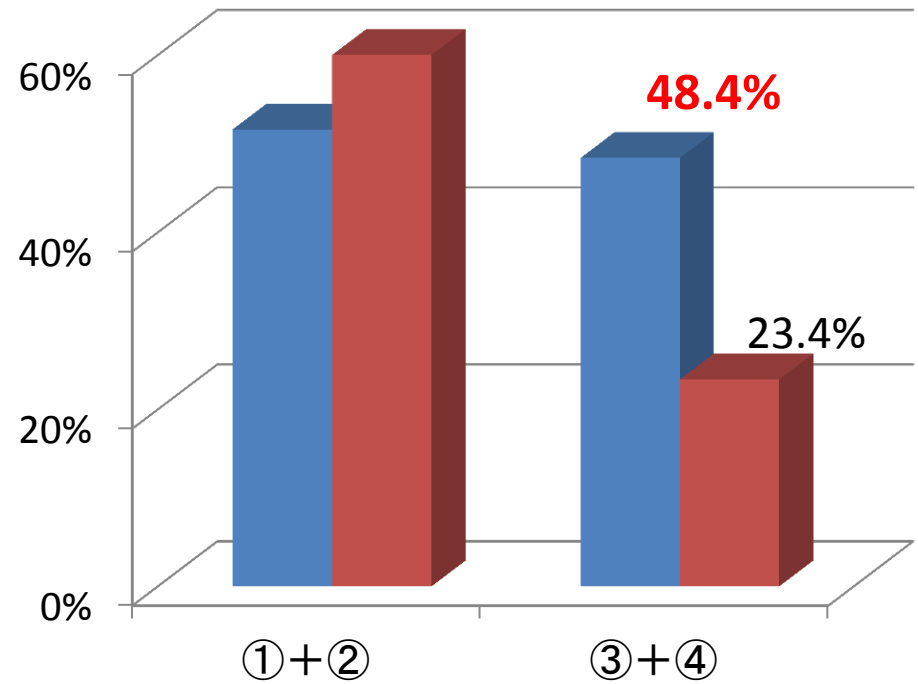
高校卒業後の進路決定③

総合学科の生徒たちは、自らの調査や体験・経験もしっかりと進路決定に関連付けている。

Q10.7 就職ガイドブックなど



Q10.8 企業訪問・職場見学など



■ 本調査(総合学科) ■ 東大調査(大半が普通科)

出典：○平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査（※「本調査」）
○高校生の進路についての調査（※「東大調査」） <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat81/post-1.html>
（2005年11月 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター）

高校卒業後の進路決定④

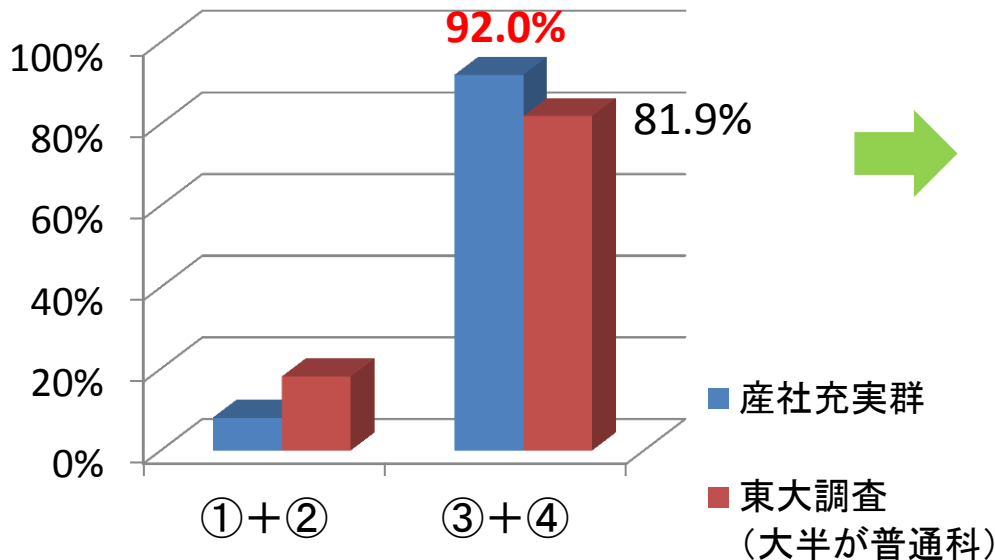
設問11

進学する(進学したい)と考えた理由として、次の項目はどの程度あてはまりますか。

※各項目について、あてはまる番号(④とてもあてはまる ③ややあてはまる ②あまりあてはまらない ①全くあてはまらない)を1つ回答。

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1) 進学するのは当然だと思っていたから。 | 6) 周りのみんなが進学するから。 |
| 2) 高卒では、よい就職先が見つからないから。 | 7) 進学すれば、自分のやりたいことが見つかると思うから。 |
| 3) 勉強してみたい分野が見つかったから。 | 8) 幅広く多くの人と知り合うことができるから。 |
| 4) 職業に必要な資格を取りたいから。 | 9) 家族や学校の先生がすすめるから。 |
| 5) 学生生活を楽しまたいから。 | 10) まだ就職したくないから。 |

Q11.3 勉強してみたい分野が見つかったから



「産業社会と人間」で充実した時間を過ごした生徒が、勉強したい分野をしっかりと見つけることができたといえる。

※産社充実群・・・
本調査における「産業社会と人間」に関する生徒の意識調査において、充実感を持っていると回答した群。

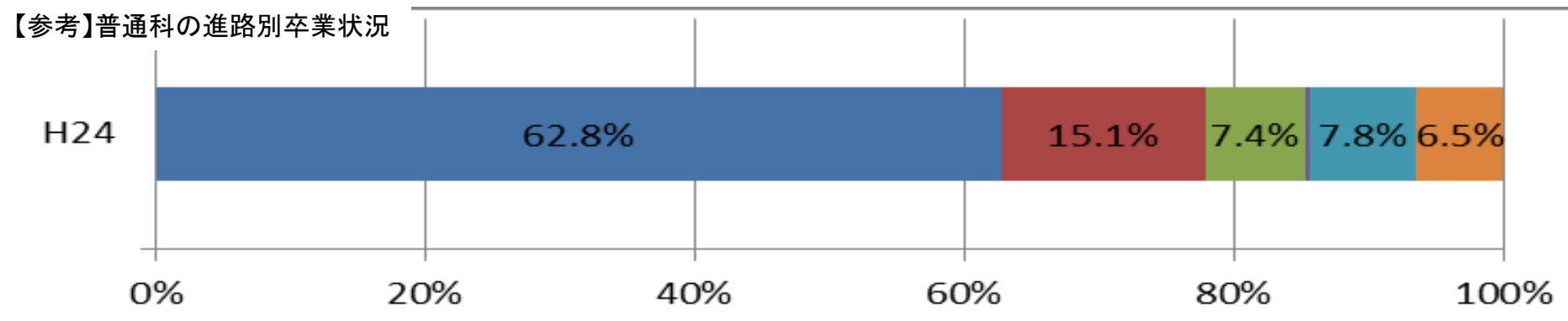
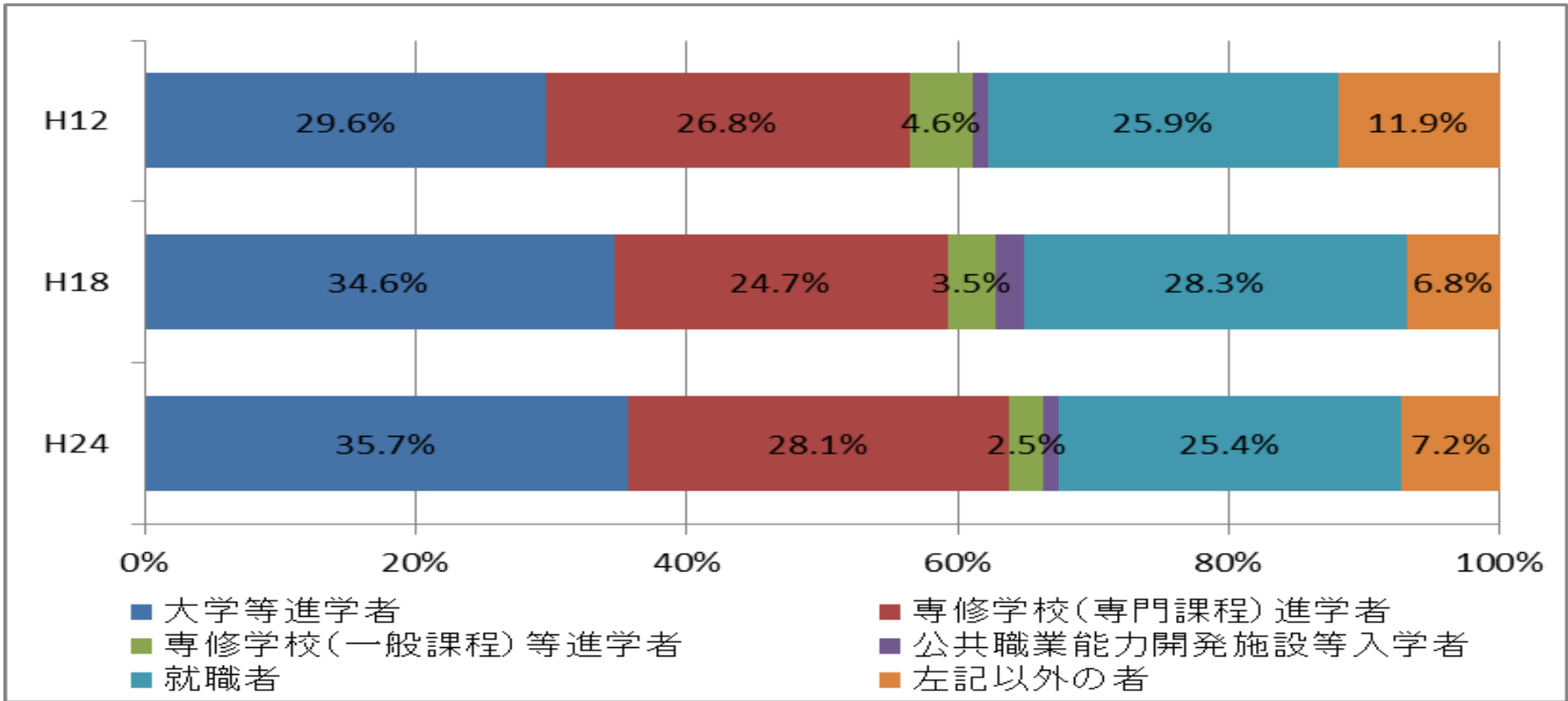
出典：○平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」

総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査 (※「本調査」)

○高校生の進路についての調査(※「東大調査」) <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat81/post-1.html>

(2005年11月 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター)

総合学科における進路別卒業状況



専門高校・総合学科卒業生入試実施状況

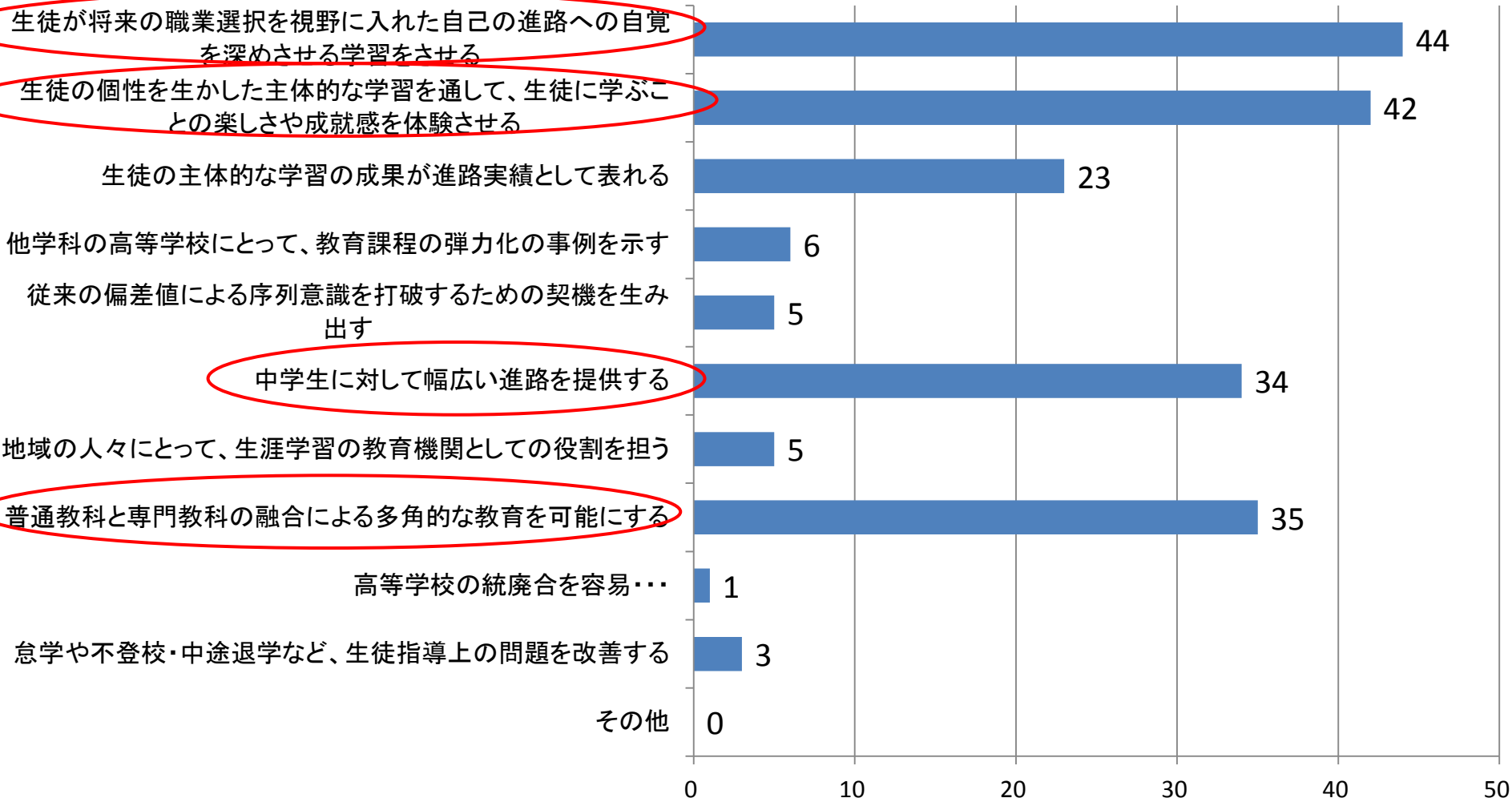
- 高等学校の専門教育を主とする学科又は総合学科卒業の入学志願者を対象として、職業に関する教科・科目の学力検査の成績などにより判定する入試である「専門高校・総合学科卒業生入試」を実施する大学数は、この10年であまり変わらず。(国公立:減 私立:増)
- 入学志願者数、入学者数は増加。

区分	平成24年度					平成15年度				
	実施大学 ・学部数		入 学 志願者数	合格者数	入学者数	実施大学 ・学部数		入 学 志願者数	合格者数	入学者数
	大学	学部	人	人	人	大学	学部	人	人	人
国立大学	8	9	104	36	36	16	17	232	74	72
公立大学	1	1	17	6	6	2	4	34	18	18
私立大学	31	57	731	661	483	19	29	306	239	191
合計	40	67	852	703	525	37	50	572	331	281

5. 総合学科に対する評価

総合学科高等学校を設置する意義（教育委員会回答）

○全都道府県及び総合学科を設置している市、計58教育委員会に調査を実施。うち、44教育委員会より回答。



出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」

総合学科の在り方に関する調査研究 第5章 都道府県教育委員会への質問紙調査による総合学科の評価と展望

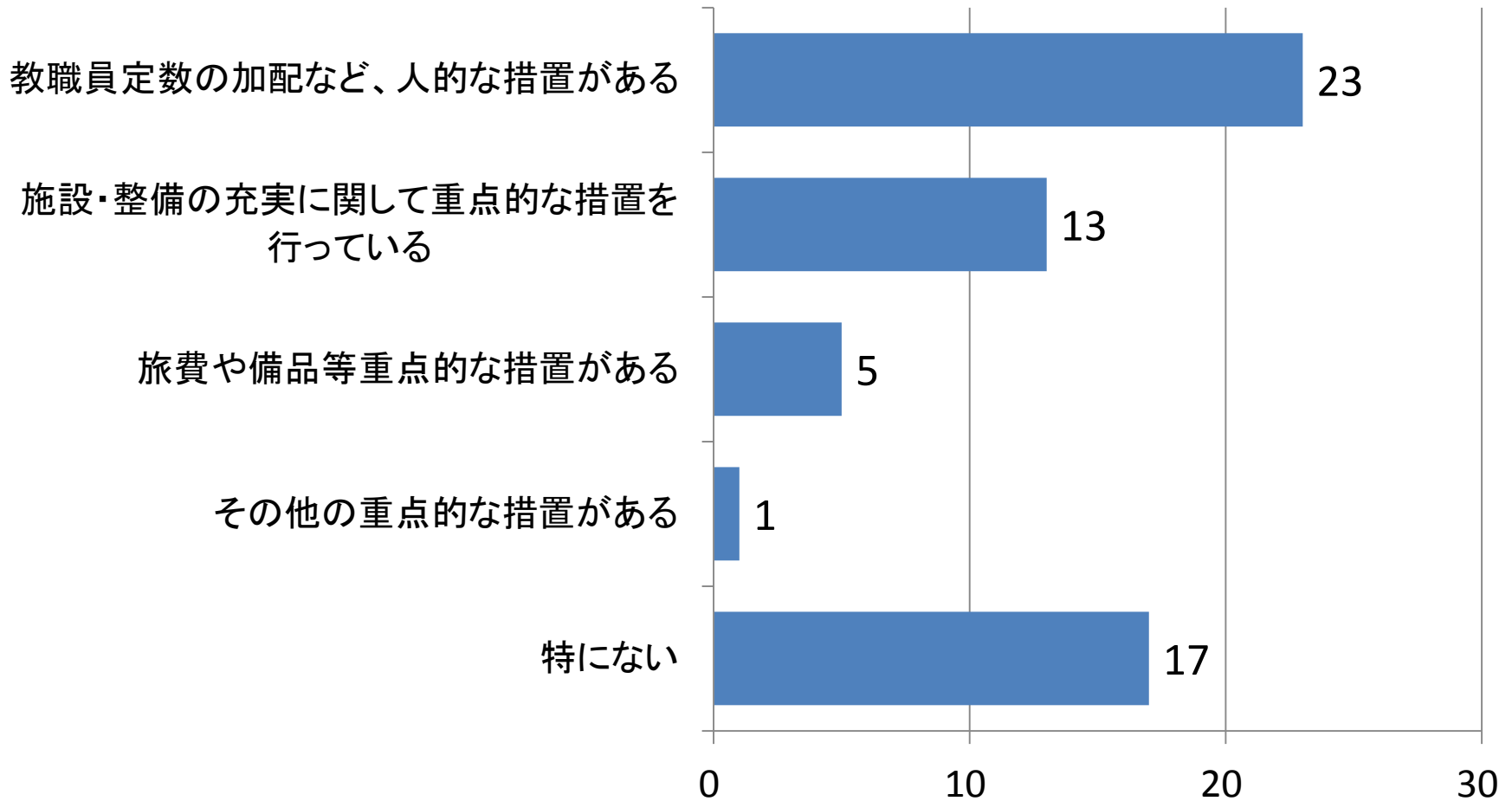
総合学科高等学校が現在抱えている課題（教育委員会回答）

○全都道府県及び総合学科を設置している市、計58教育委員会に調査を実施。うち、44教育委員会より回答。

将来の職業選択を視野…	5
生徒が学ぶ楽しさ…	1
生徒の主体的な学習の成果が進路実績として表れていない	16
他の高等学校に対して…	2
従来 of 偏差値による…	4
地域の人々に対し…	5
普通教科と専門教科の…	5
怠学や不登校・中途退学…	4
人件費を含め、他学科の高等学校に比べ運営経費がかかる	19
総合学科の教育に関する研究が進んでいない	8
総合学科における教育に関する教員研修が進んでいない	9
総合学科高等学校への…	4
中学生の総合学科についての理解が深まっていない	30
保護者の総合学科についての理解が深まっていない	32
地域の人々の総合学科についての理解が深まっていない	25
その他	6

総合学科高等学校に対しての重点的な措置（教育委員会回答）

○全都道府県及び総合学科を設置している市、計58教育委員会に調査を実施。うち、44教育委員会より回答。

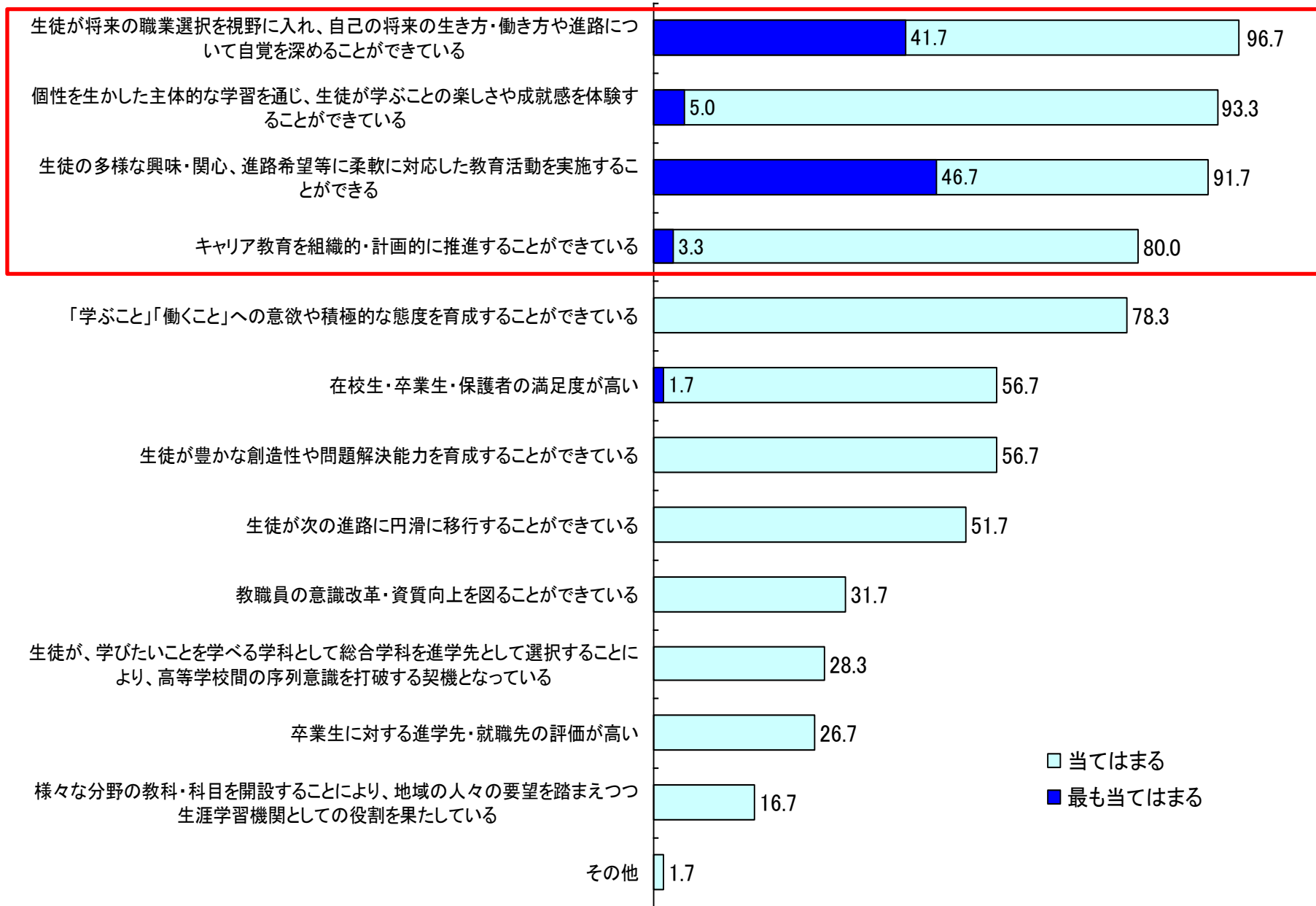


出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」

総合学科の在り方に関する調査研究 第5章 都道府県教育委員会への質問紙調査による総合学科の評価と展望

総合学科を導入したことによる成果（教育委員会回答）

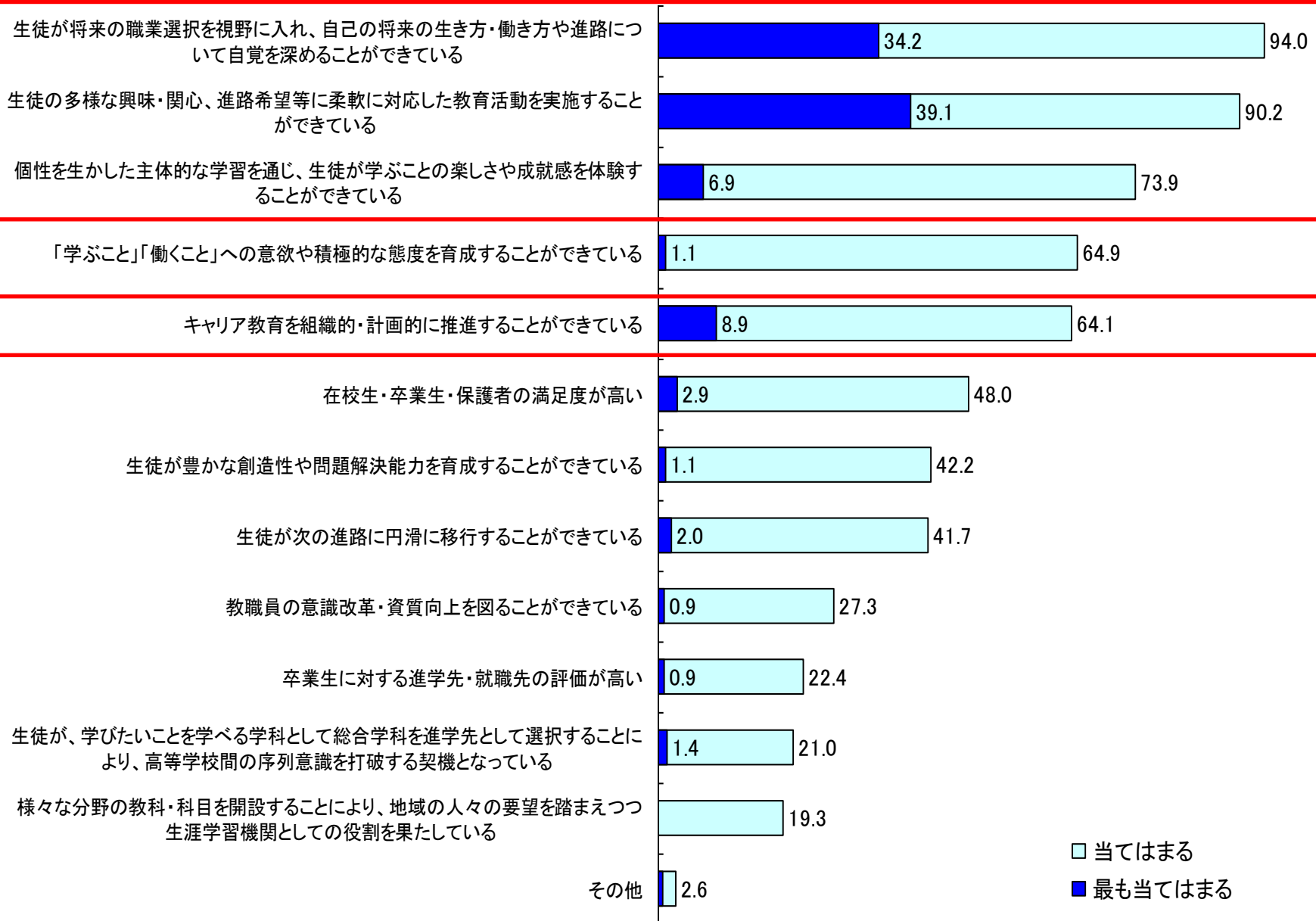
(%)



資料：文部科学省「総合学科、学校設定科目『産業社会と人間』に関する調査」

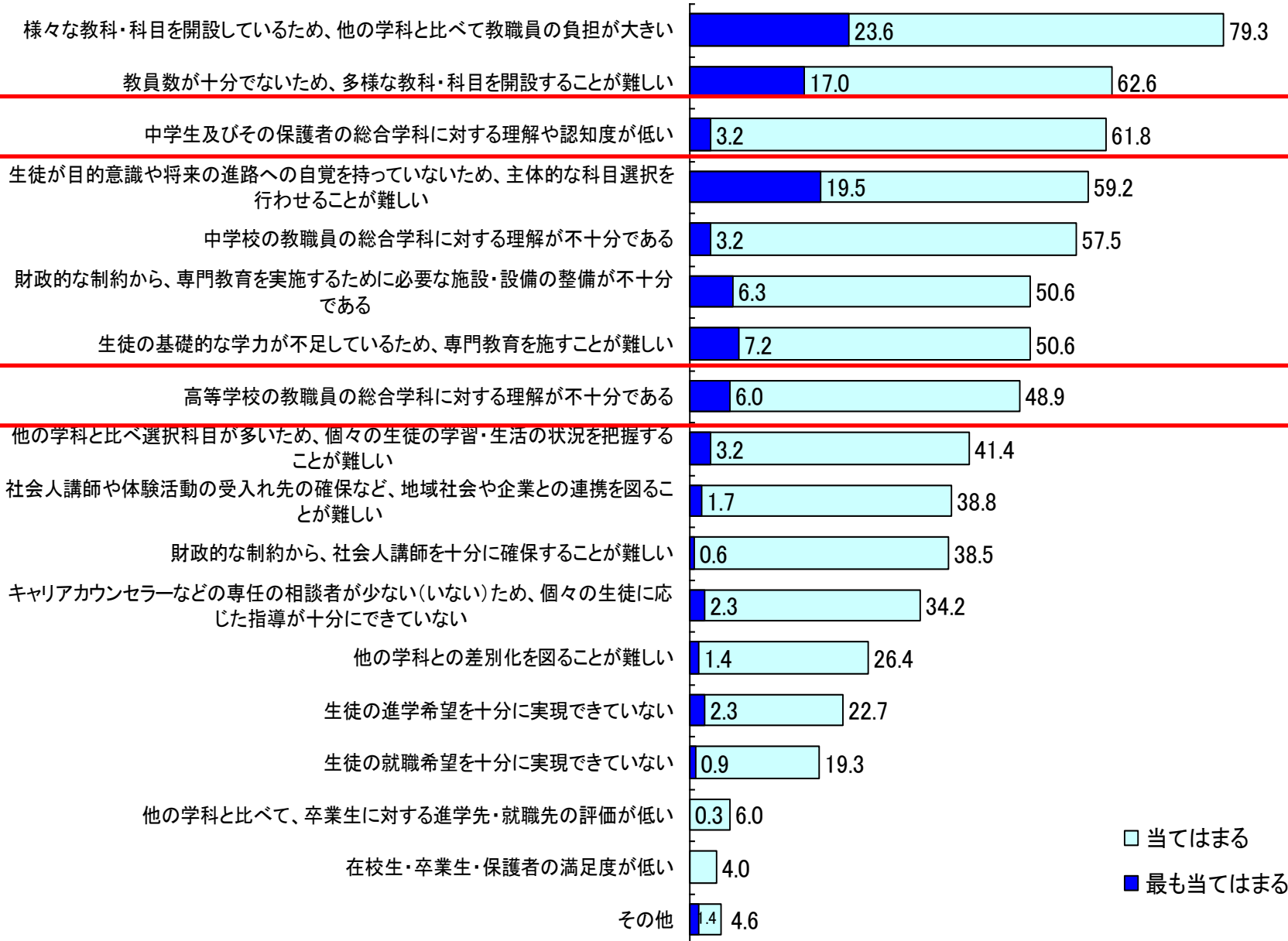
総合学科を導入したことによる成果(学校回答)

(%)



総合学科の課題(学校回答)

(%)

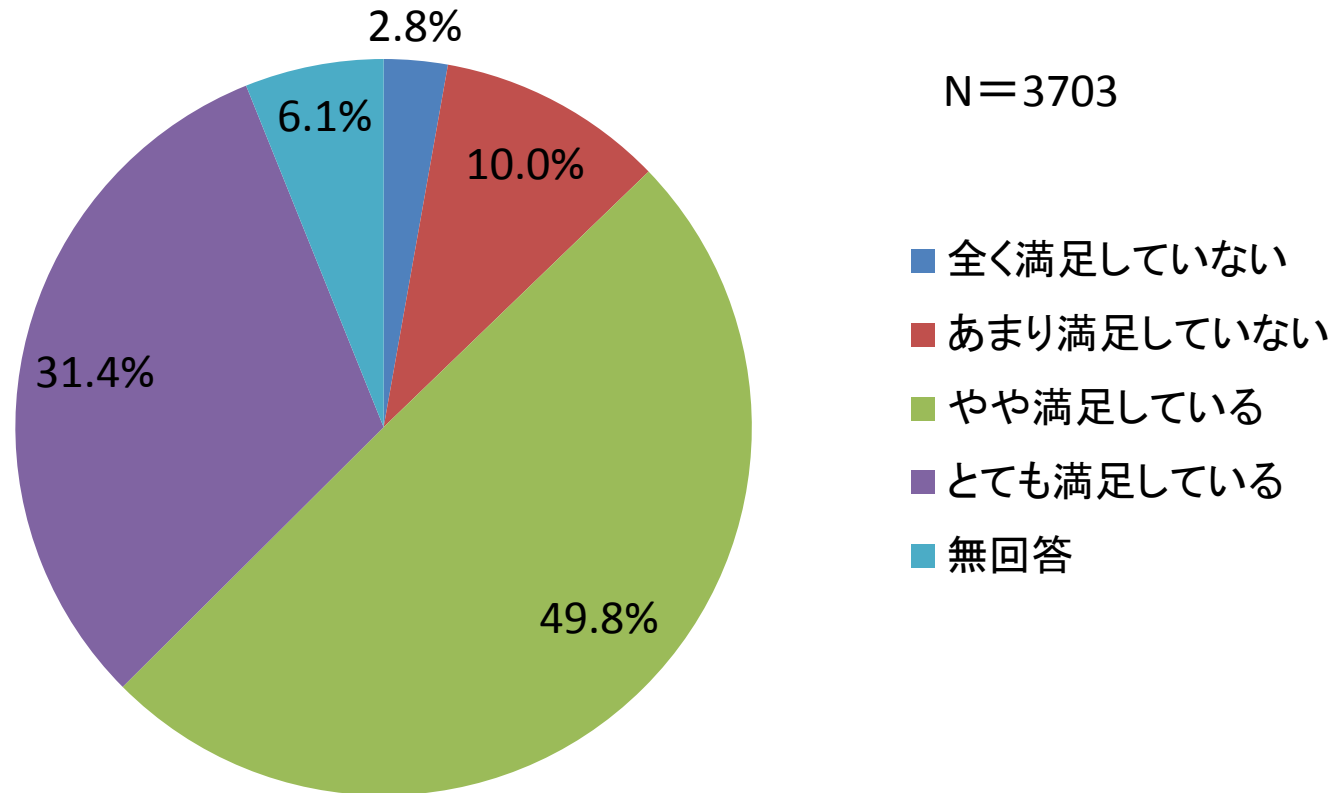


□ 当てはまる
■ 最も当てはまる

総合学科を選択したことについて(生徒回答)

設問15

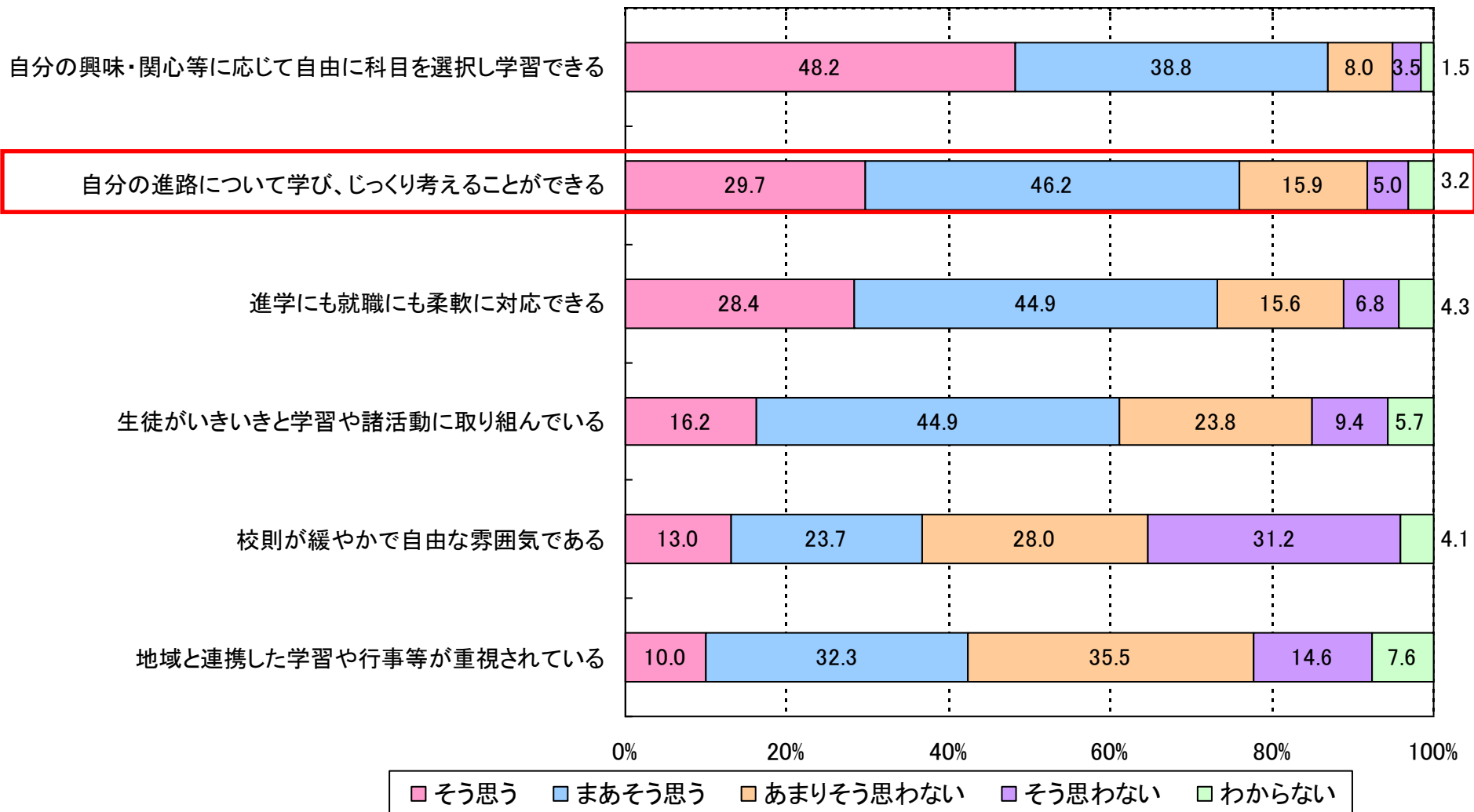
総合学科を選択したことについて、今のあなたの気持ちにあてはまる番号
(④とても満足している ③やや満足している ②あまり満足していない ①全く満足していない)
を1つ選択してください。



出典：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」
総合学科の在り方に関する調査研究 第2章 総合学科に在籍する生徒の意識調査

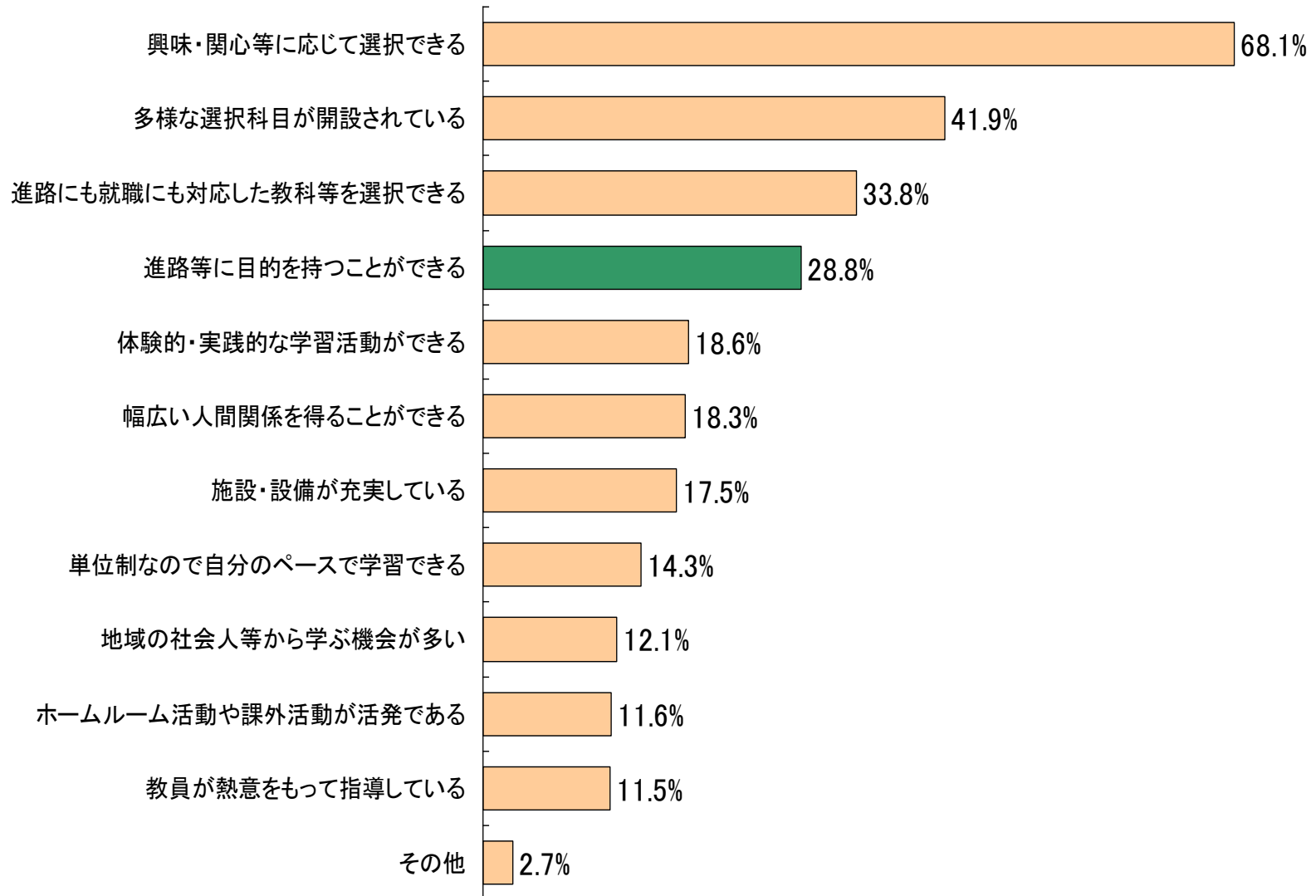
総合学科の特色についての生徒の認識

総合学科の生徒は、自分の進路について学び、じっくり考えることができることを総合学科の特色ととらえている割合が比較的高い

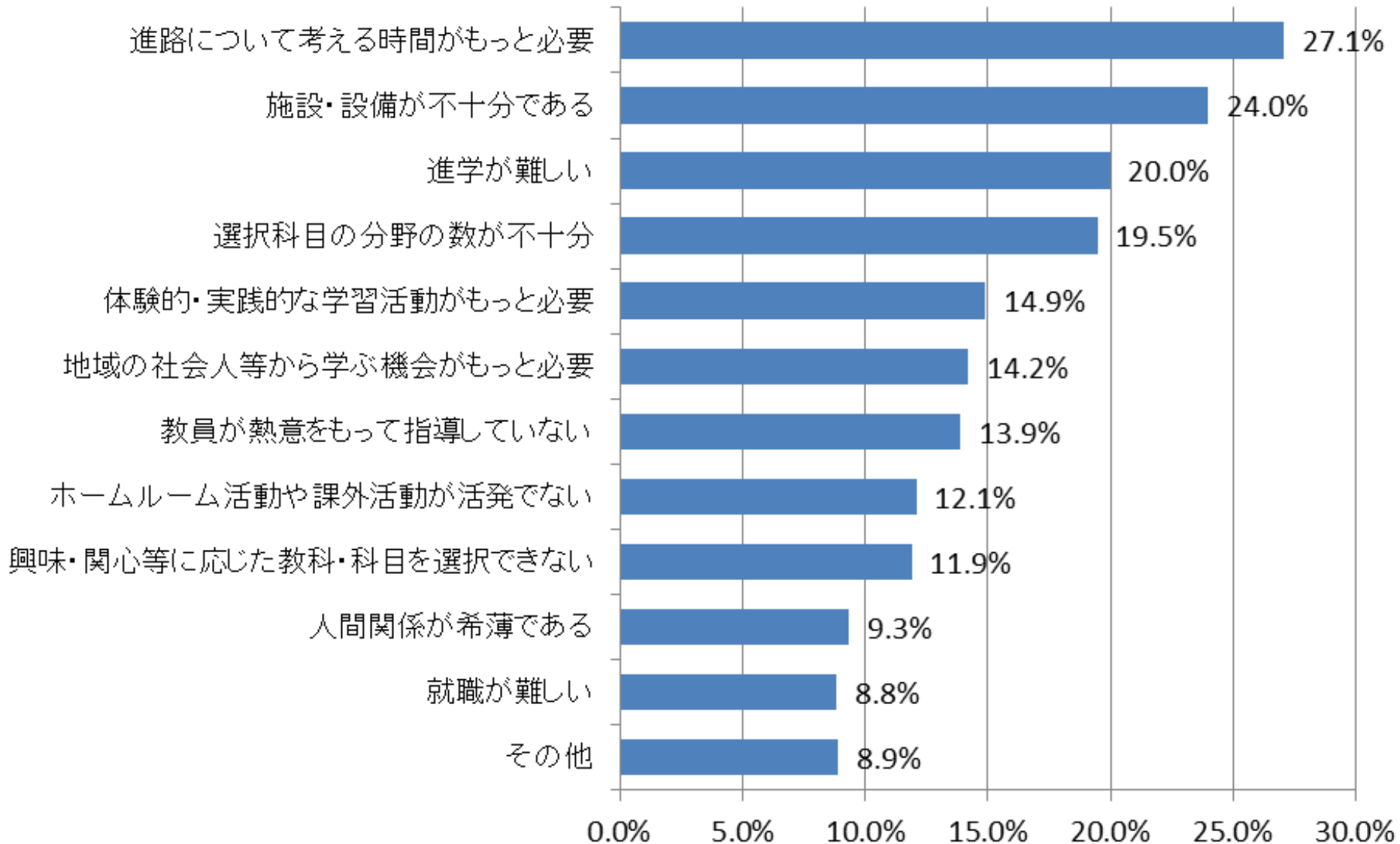


総合学科に満足している点(生徒回答)

総合学科で進路等に目的を持つことができることに満足している生徒は約3割



総合学科について不満足な点(生徒回答)



総合学科の改善点に対する意識①(生徒回答)

設問18

総合学科高校の特徴的な仕組み(「産業社会と人間」の授業や科目選択、系列など)について、改善した方がよいと思うことを書いてください。(自由記述)

授業内容に関すること

- ・もっと実践的で、周りとの対話ができる授業が必要だと思う。
- ・受け身の授業ばかりではなく、ディベートなどの積極的な授業を増やすべき。
- ・普通科よりも授業時数が少ないのはわかるが、1年間で教科書が終わらないのは問題である。
- ・もう少し基礎レベルの学びがあると助かる。 ・講演もよいが、授業も重視すべき。
- ・総合学科出身でも大学受験に不利のないような授業をしてほしい。
- ・3年生での卒業研究は進路もあるので大変です。
- ・教員の絶対数が足りない。同じく、施設が足りない。
- ・先生一人ひとりの授業の教え方。わからない先生とわかる先生の差が大きい。

科目選択に関すること

- ・科目選択が急すぎる。 ・科目選択がややこしい。 ・科目選択の仕方がわかりにくい。
- ・もっと科目を増やしてほしい。(多数)
- ・科目選択で、思ったより取りたい授業が取れない。もっといろいろなことをしたかった。
- ・もっと幅広く授業の分野を増やした方がよいと思う。総合学科の良さがあるのに、進学率を増やそうとするのは間違っていると思う。
- ・人数が足りないという理由で、選択を却下された。総合学科なので、受講したい授業を選択できるということだったのに、このようなことがあってはいけないと思う。
- ・先生が理解していなさ過ぎ。学年の先生たちも、もっと担当の先生に聞いたりした方がよいと思う。

総合学科の改善点に対する意識②(生徒回答)

系列に関すること

- ・もう少し系列を増やしてもよいと思う。もっと自由に選択できるといいなと思った。
- ・もう少し専門分野の数を多くし、種類も増やすべきだ。そうすることによって、もっと生徒が将来の職業について深く考えるようになるだろう。
- ・コースによって難易度が違いすぎる。
- ・専門分野に関して、とても興味・関心などがあった場合に、一步踏み込んで理解をする機会がないこと。

「産業社会と人間」に関すること

- ・産社をやる意味があるのかわからない。・産社の授業はいらない。
- ・産社はあまり充実はしていなかった。もっと質を向上してほしい。
- ・いま思うと産社はためになったと思うけど、やっている時はよくわからなかった。だから、目的とかをもっと明確にした方がいいと思う。
- ・産社の授業をもっと増やして、将来についてもう少し考える時間がほしい。(就職だけではなくて、大学や専門について詳しく知りたい。)

進路に関すること

- ・取りたい資格を取らせてほしい。・途中で進路を変えたときの対応。
- ・新たな夢が見つかったときに進路を変えられない。
- ・途中で進路変更をした場合、受験に必要な科目を取れない場合がある。
- ・もっと真剣に進路について考えさせるべきだ。

総合学科を選択し、入学してきた生徒たちが、卒業時に総合学科での学びに充実感を得、自信をもって人生の一步を踏み出せるように、指導の工夫・充実が求められる。

6. その他

予算上の措置

特別な予算は、学校開校もしくは学校改編時に計上されるが、その後は通常の経費で賄っているのが現状。

	ある	かつてあった	ない
総合学科棟などの施設・設備経費	13.4%	34.9%	42.7%
特別非常勤講師に関する経費	32.1%	4.9%	47.4%
情報機器の整備に関する経費	12.0%	23.9%	49.3%
備品購入に関する特別経費	9.1%	23.9%	50.7%
先進校の視察等に関する経費	7.7%	20.1%	56.5%

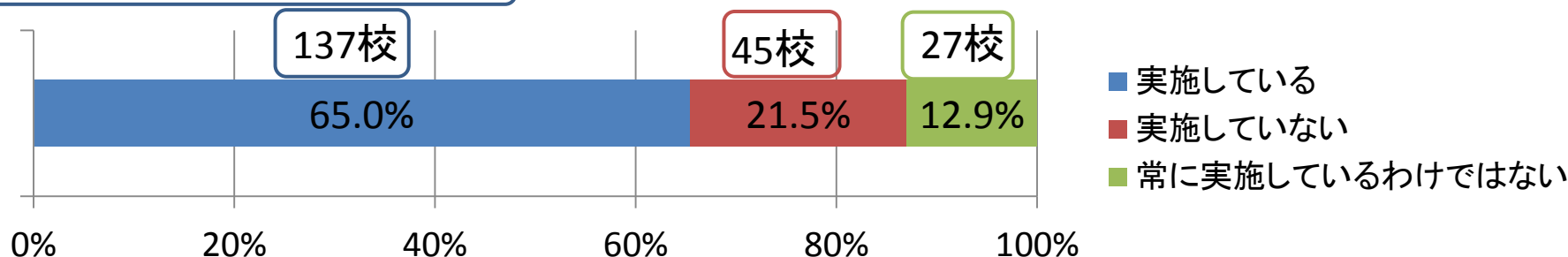
○その他の工夫

- ・教室の有効利用としてパーティションで区切った教室数の確保
- ・修繕を可能な限り技術職員で賄う
- ・施設設備にあわせて選択科目を設置

等

研修の充実①

新転任者を対象とした校内研修



○研修内容として実際に行われている項目

①総合学科の教育課程に関すること	87.6%
②総合学科のシステムに関すること	82.5%
③総合学科の理念に関すること	66.4%
④「産業社会と人間」に関すること	65.0%

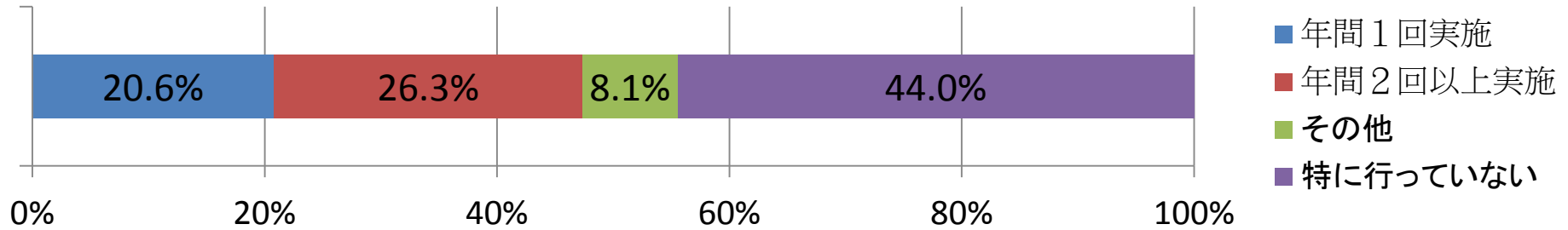
○現在研修を行っていない理由

- ・「研修の時間が確保できない」(62.5%)
- ・「校内で実施する他の研修で十分と考える」(25.0%)
- ・「特に研修が必要だとは考えていない」(16.7%)

等

研修の充実②

総合学科の推進に関する校内での教職員研修の実施頻度



○研修内容として実際に行われている項目

①総合学科の教育課程に関すること	53.9%
②当面する事項の諸課題に関すること	41.7%
③キャリア教育に関すること	40.9%
④「産業社会と人間」に関すること	40.4%

○研修会を実施しない理由

- ・「研修のための時間が確保できない」(48.9%)
- ・「特に研修が必要だとは考えていない」(30.4%)
- ・「研修の講師として適任者がいない」(10.9%)

等